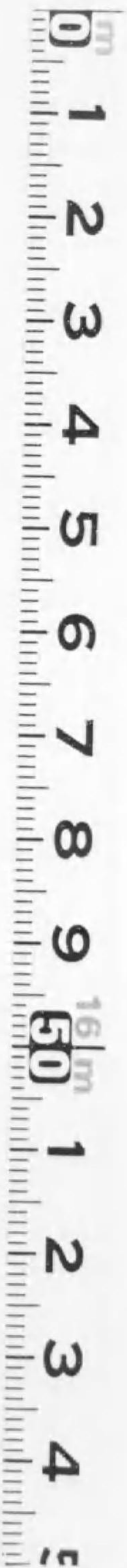


始

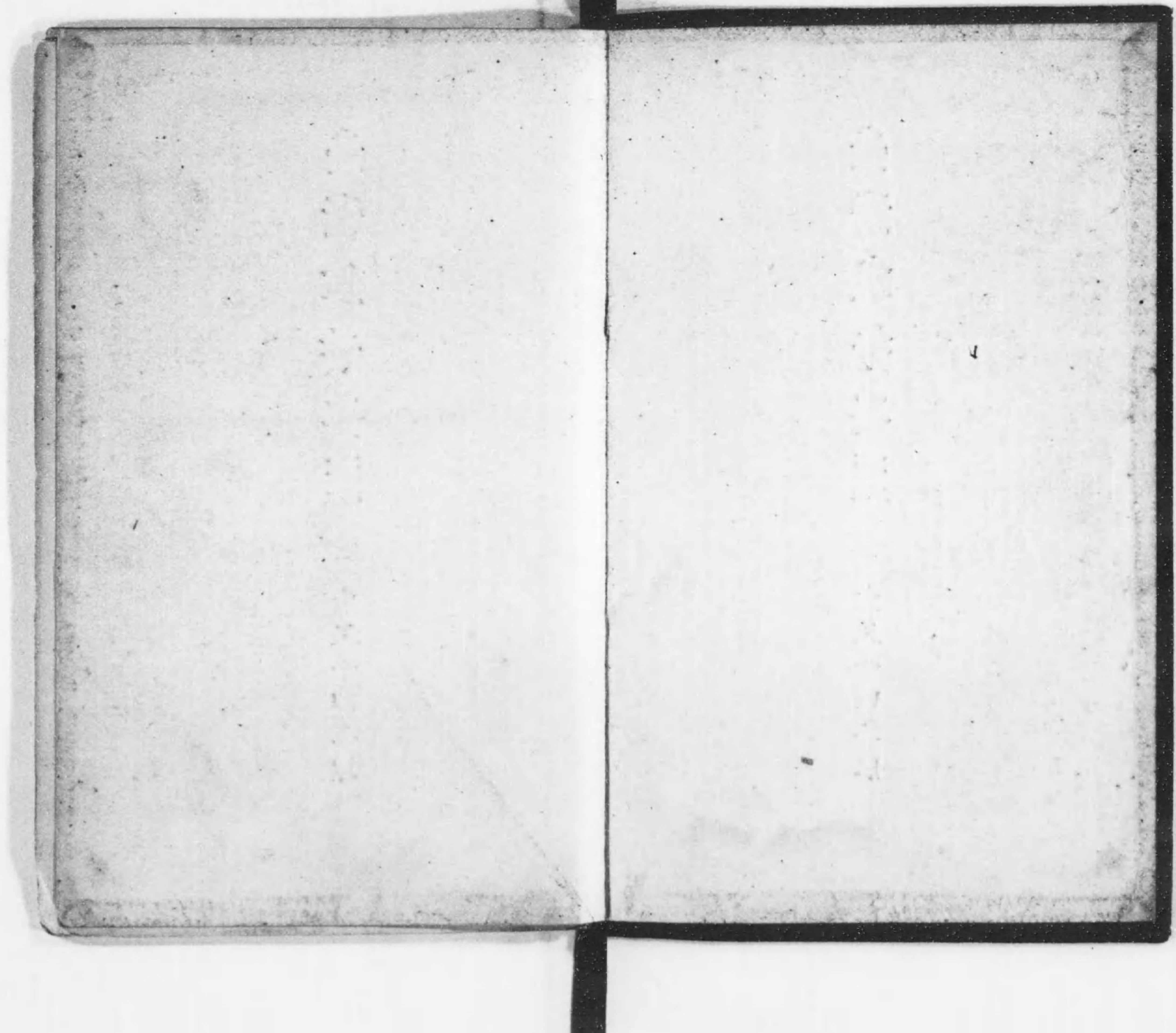


516

357

臺灣現勢要覽

大正十四年版



516-357



勢  
要  
覽



發行所寄贈本



上海圖書館

五大

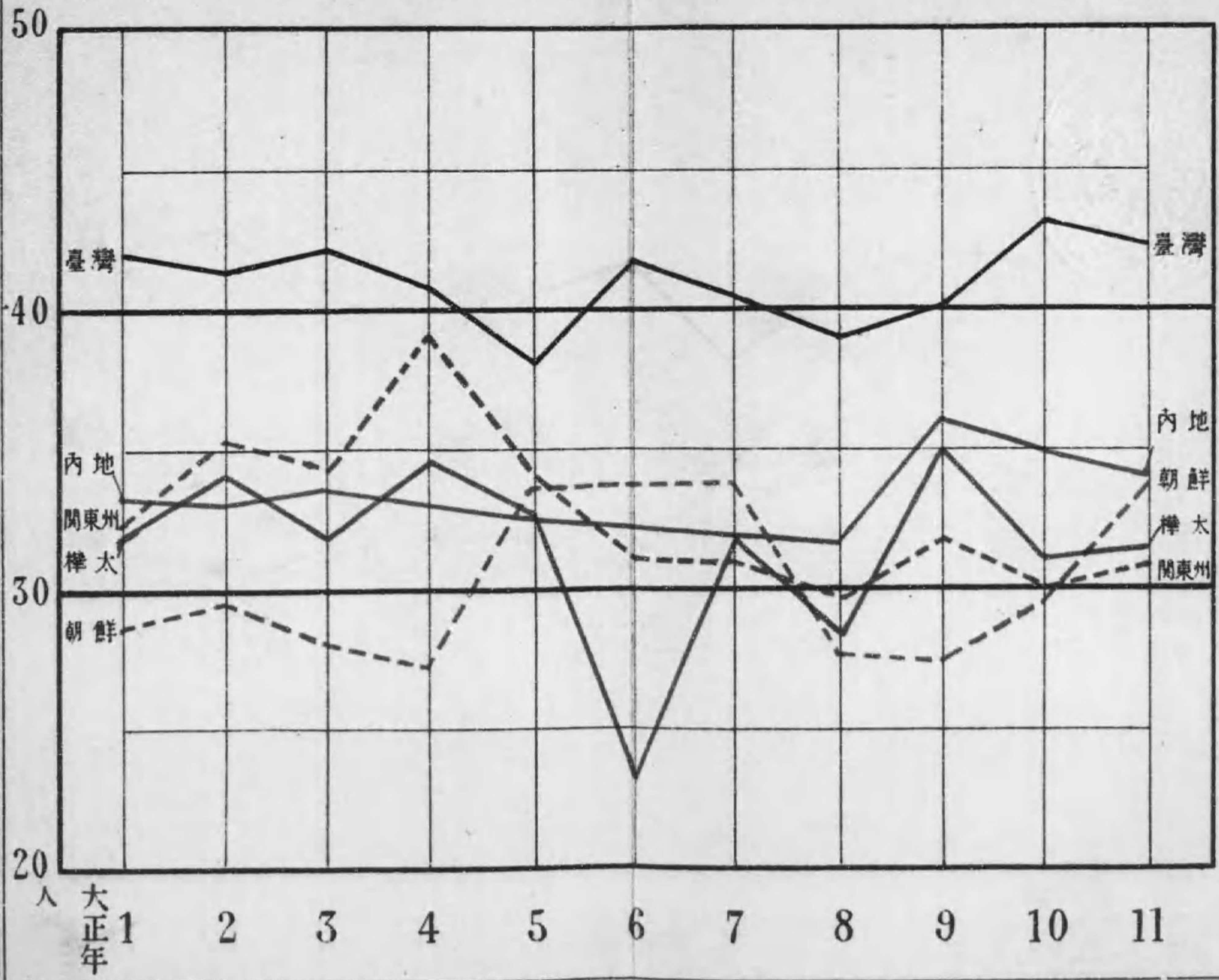
川

書

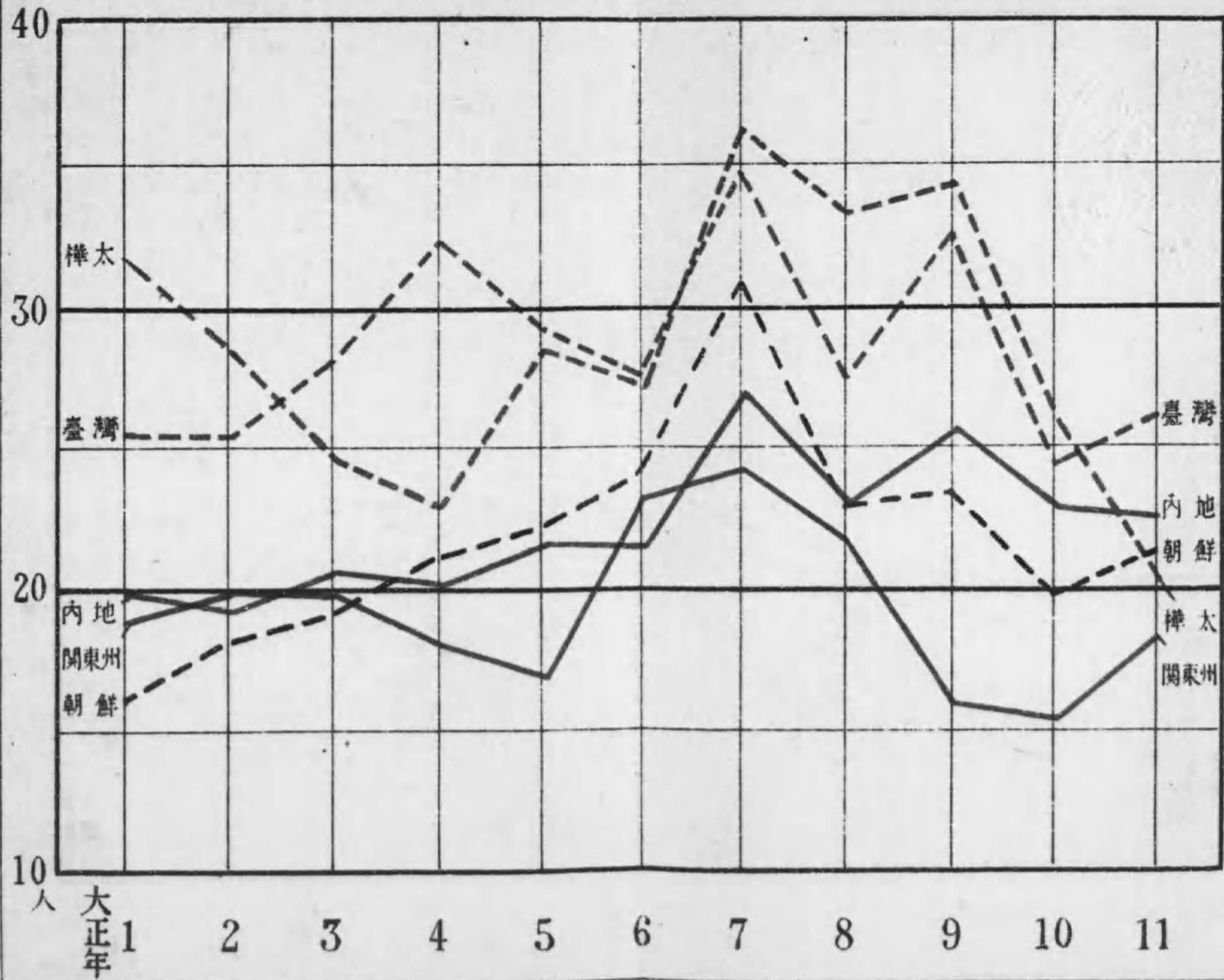
上海圖書館藏

# 生産率累年比較

(人口千二付) (内地ハ全管内) (関東州ハ州内)



# 死亡率累年比較 (人口千二付) (内地ハ全管内) 關東州ハ州内)



516-357

### 凡 例

- 一 本書は、臺灣の現勢を知るの便に資せんか爲め、主要なる事項に就て、その統計的説明を試みたるものなり。
- 二 本書は、大正十二年の事實を基礎としたるも、その最近の統計あるものは、努めて之を採り、又大正十二年の事實不明のもの又は特に必要と認めたるものは、大正十二年以前の統計をも採りたり。
- 三 本書は、主として臺灣の現勢を知るを目的とするも、特にその變遷進歩の状態を説明するの必要ある事項に就ては、累年の統計をも擧げたり。
- 四 本書は、帝國に於ける臺灣の地位を説明するの便に供せんか爲め、その必要なる事項に就ては、内地府縣、北海道、朝鮮、樺太、關東州等との比較對照をも試みたり。

大正十四年五月

臺 灣 總 督 府

臺灣現勢要覽目次

一	位置	一
二	面積	四
三	山嶽	六
四	河川	一〇
五	土地の利用	三
六	氣温	三
七	雨量	四
八	人口	七
九	本籍別内地人	二〇
〇	在外臺灣人	三
一	在留外國人	二六
二	臺灣語を話す内地人	二八
三	國語を解する本島人	三〇
四	婚姻、離婚、出生、死亡	三三
五	出生率	三三
六	死亡率	三三
七	人口の増加	三七



一八	蕃人.....	四三
一九	行政區劃.....	四三
二〇	州及廳の面積.....	四七
二一	州及廳の人口.....	五〇
二二	主要都市.....	五三
二三	農業戶數.....	五七
二四	耕地面積.....	五九
二五	水利.....	六一
二六	農產.....	六三
二七	畜產.....	六五
二八	林產.....	六七
二九	礦產.....	六九
三〇	水產.....	七一
三一	工業.....	七四
三二	糖業.....	七六
三三	貿易.....	七八
三四	對手國別外國貿易.....	八二
三五	支那、香港及南洋貿易.....	八五
三六	重要品別外國貿易.....	八七

三七	重要品別内地貿易.....	九〇
三八	港別貿易.....	九三
三九	財政.....	九五
四〇	專賣.....	九七
四一	銀行.....	九九
四二	物價.....	一〇一
四三	教育.....	一〇三
四四	衛生機關.....	一〇七
四五	水道.....	一〇九
四六	ペストとマラリヤ.....	一一一
四七	阿片吸食特許者.....	一一三
四八	鐵道.....	一一五
四九	郵便、電信、電話.....	一二七
五〇	警察官署及職員.....	一二九
五一	最近十二年間の進歩.....	一三三

圖表

一	生産率累年比較.....	一三三
二	死亡率累年比較.....	一三三

臺灣現勢要覽

一 位置

臺灣は帝國の最南端に位し、臺灣本島、澎湖列島及其他の附屬島嶼より成る。今之を經緯度に釋するに、東經百十九度十八分より百二十二度六分、北緯二十一度四十五分より二十五度三十八分に至る。北は海上六百四十一哩にして九州の南端鹿兒島に達し、西は臺灣海峡を隔て、近く支那大陸に相接し、東は太平洋を隔て、遠く米大陸に相對し、南はバツシー海峡を隔て、近く比律賓群島に相隣す。

一 經度及緯度

澎湖島	緯度(北緯)	極南	高雄州澎湖郡大嶼南端	二二・一〇
	緯度(北緯)	極北	高雄州澎湖郡目斗嶼北端	二三・四六
臺灣本島	經度(東經)	極東	臺北州基隆市棉花嶼東端	二三・〇六
	經度(東經)	極西	臺南州北港郡口湖庄新港西端	二二〇・三
	緯度(北緯)	極南	高雄州恒春郡七星岩南端	二二・四五
	緯度(北緯)	極北	臺北州基隆市彭佳嶼北端	二五・三六
	經度(東經)	極東	高雄州澎湖郡查母嶼東端	二二九・四三
	經度(東經)	極西	高雄州澎湖郡花嶼西端	二一九・一八

距離

離 基隆を基點とする直航里程

那 鹿 長 門 神 橫 釜 大 福 厦 汕 上 香 麻 海 西 盤

兒 尼

霸 島 崎 司 戶 濱 山 連 州 門 頭 海 港 刺 防 買 谷

三三四  
三六一  
六三三  
七三九  
九八二  
一一三七  
八六二  
八五〇  
一五二  
三三六  
三二八  
四二八  
四七九  
七七六  
九六一  
一三〇〇  
一八九五

新 嘉 坡

一八三四  
二六九四

二面積

臺灣の面積は二千三百三十二方里にして、帝國の總面積四萬四千百三十五方里中その五分三厘を占め、九州よりは稍小さく、樺太と伯仲し、朝鮮に比すれば約その六分の一に當る。尙ほ之を列國の面積に比すれば、瑞西（二千六百七十八方里）と和蘭（二千百十四方里）との中間に位す。

總數	面積	百分比
臺灣	四四、一三五	一〇〇
朝鮮	二、三三三	五三
樺太	一四、三二二	三三四
北海道	二、三四〇	五三
内地府縣	六、一四五	一三九
内地府縣	一九、〇〇六	四三一

本表の外租借地として關東州（州内）の面積二百十八方里及委任統治に係る南洋群島の面積百六十三方里あり。  
 朝鮮、樺太、關東州は同廳統計書に依る。  
 北海道、内地府縣は帝國統計年鑑に依る。  
 南洋群島は列國國勢要覽に依る。

三山嶽

臺灣は帝國第一の高山新高山を始めとし、海拔一萬尺以上のもの四十八座、九千尺級のもの十七座、八千尺級のもの二十四座、七千尺級のもの二十六座を有す。故に七千尺以上の高山の總數は百十五座の多きに達し、所謂「高山國」の名に背かずして熱帶、暖帶、溫帶、寒帶等各種の林相を有す。

帝國の全領土を通して一萬尺以上の高山は總數五十五座を算し、就中臺灣四十八座を占め、内地は僅かに七座を有し、北海道、朝鮮、樺太は共に之を缺く。即ち新高山は一萬三千七十五尺を以て第一位を占め、富士山は漸く第六位に在り、内地第二の高山赤石山は僅かに四十五位を占むるに過ぎず。

新高山	次高山	秀姑巒山	マボラス山	南湖大山	富士山(内地)	中央尖山	關山
一三、〇七五	一二、九七二	一二、六五〇	一二、五六〇	一二、五三一	一二、三八七	一二、二六〇	一二、一〇〇
一	二	三	四	五	六	七	八

海面よりの高さ

順位

大水窟山	葇萊主山北峰	東郡大山	大雪山	大霸尖山	雲峰	葇萊主山	東巒大山	合歡山	北合歡山	東合歡山	南玉	桃山	シンカン山	畢祿山	丹大山	白姑大山	葇萊主山南峰	南双頭山
一二、〇二八	一一、八九五	一一、八九五	一一、八八〇	一一、七九二	一一、七七八	一一、六九五	一一、四三六	一一、二〇〇	一一、二〇〇	一一、二〇〇	一一、一九一	一一、一八八	一一、一五七	一一、一五一	一一、一四	一一、〇五三	一一、〇〇五	一一、〇〇〇
九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七

能高山南峰	11,000	二八
卑南主山	10,905	二九
千卓萬山	10,903	三〇
カシバナ山	10,869	三一
郡大山	10,865	三二
タロコ大山	10,863	三三
卓社大山	10,816	三四
小關山	10,740	三五
能高山	10,733	三六
屏風山	10,673	三七
大武山	10,665	三八
尖山	10,632	三九
バトツノフ山	10,630	四〇
ハイノートーア山	10,478	四一
マビーサン山	10,450	四二
白石山	10,354	四三
ウハノシン山	10,334	四四
赤石山(内地)	10,214	四五
東俣山(内地)	10,111	四六

安東郡山	10,193	四七
巒大山	10,150	四八
御嶽(内地)	10,128	四九
槍ヶ嶽(内地)	10,104	五〇
關門山	10,073	五一
大石公山	10,060	五二
白根嶽(内地)	10,053	五三
小雪山	10,043	五四
大蓮華(内地)	10,000	五五

内地の分は第四十二回國勢一斑に依る。

四河川

臺灣は幅員狭く、その最も廣き部分と雖、僅かに四十里内外に過ぎず、且つ高峯南北に貫通するを以て、河川の發源孰れも近く、舟楫の便は多く望むべからず。流域二十里以上のもの僅かに十を算し、最長の河川たる濁水溪にして漸く四十二里に過ぎず。

濁水溪	四二里
曾文溪	三三七
淡水河	三三二
大甲溪	三〇〇
烏甲溪	二八六
八獎溪	二八三
秀姑巒溪	三三六
卑南溪	二二五
大安溪	二〇五

本表は流域二十里以上のものゝみを掲ぐ。

正

[Faint, mostly illegible text on page 11, likely bleed-through from the reverse side.]

### 五 土地の利用

臺灣の總面積は三百六十二萬六千町歩(三百七十萬八千甲)にして、内、耕地七十五萬八千町歩(七十七萬五千甲)、林野二百五十六萬二千町歩(二百六十二萬甲)、其の他三十萬六千町歩(三十一萬二千甲)なり。

今之を内地其の他と比較するに、總面積に對する耕地の割合最も大なるは、關東州の三割七分二厘にして、臺灣は二割九厘を以て之に亞き、樺太の五厘最も小なり。林野に於ては樺太の九割一分五厘最も大にして、臺灣は七割七厘を以て第三位を占め、關東州の九分最も小なり。耕地及林野以外の土地の割合最も大なるは關東州の五割三分八厘にして、樺太の八分最も小なり。

實數	實數			百分比		
	耕地	林野	其他	耕地	林野	其他
臺灣	七五八、三四一	二、五六二、五五六	三〇六、〇二四	二〇九	七〇七	八四
朝鮮	四、三三〇、八六四	一五、八八三、〇〇〇	二、〇五二、九六〇	一九四	七二四	九二
樺太	一八、三五三	三、三三八、〇〇〇	二九二、二三八	〇五	九一五	八〇
關東州(州内)	二二五、九九九	三〇、四六〇	一八二、四二二	三七二	九〇	五三八
北海道	八三六、四四七	五、四三七、三〇〇	三、二九一、七二八	八六	五六九	三四五
内地府縣	五、二二二、五七五	一六、九八二、八五一	七、三六三、五六九	一七六	五七五	二四九
耕地は大正十二年末現在なり。						

林野は臺灣、樺太、關東州は大正十二年度末現在、朝鮮は大正十三年五月末日現在、内地及北海道は大正十年末現在なり。

朝鮮、樺太、關東州は同廳統計書に依る。北海道、内地府縣の耕地は第四十次農商務統計表に依り、林野は第四十三回帝國統計年鑑に依る。



### 六 氣 温

臺灣は北回歸線に跨り、半は熱帯圏に位するか故に、内地に比すれば夏季長く、冬季短きも、その最高氣温は敢て内地より高しと謂ふにあらす。而も冬季は頗る暖かにして、高山ならざれば降雪なく、北部の平地に於ては偶々霜を見る事なしとせざるも極て稀なり。今内地其の他と比較するに、累年平均氣温は我臺灣最も高きも、最高極度の氣温に至りては内地其の他の部分却つて高し。即ち臺東の三十九度(華氏百二度二分)は新潟の三十九度一分(華氏百二度四分)より一分低く、又臺北の三十七度五分(華氏九十九度五分)は京城と同じくして大阪の三十七度六分(華氏九十九度七分)より一分低し。更に恒春の三十四度九分(華氏九十四度八分)は大泊函館及札幌を除けば他の何れの地方よりも低し。

#### 大正十二年平均 平均

#### 最高の極

#### 最低の極

臺	攝氏 華氏 度	攝氏 華氏 度	攝氏 華氏 度	攝氏 華氏 度	攝氏 華氏 度	攝氏 華氏 度
臺灣	攝氏 24.0	華氏 75.2	攝氏 24.3	華氏 75.7	攝氏 34.9	華氏 94.8
恒春	攝氏 23.1	華氏 73.5	攝氏 23.4	華氏 74.1	攝氏 39.0	華氏 102.2
臺東	攝氏 23.0	華氏 73.4	攝氏 23.0	華氏 73.4	攝氏 36.9	華氏 98.4
臺南	攝氏 23.7	華氏 74.7	攝氏 23.5	華氏 74.3	攝氏 33.5	華氏 92.3
澎湖島						

累年

臺	攝氏 華氏 度	攝氏 華氏 度	攝氏 華氏 度	攝氏 華氏 度	攝氏 華氏 度	攝氏 華氏 度
臺中	攝氏 23.2	華氏 73.8	攝氏 23.1	華氏 73.6	攝氏 37.2	華氏 99.0
臺北	攝氏 22.6	華氏 72.7	攝氏 22.6	華氏 72.7	攝氏 37.5	華氏 99.5
基隆	攝氏 22.6	華氏 72.7	攝氏 22.6	華氏 72.7	攝氏 37.5	華氏 99.5
釜山	攝氏 21.5	華氏 70.7	攝氏 21.4	華氏 70.5	攝氏 35.0	華氏 95.0
京城	攝氏 20.8	華氏 69.4	攝氏 20.9	華氏 69.6	攝氏 37.5	華氏 99.5
天津	攝氏 19.8	華氏 67.6	攝氏 19.9	華氏 67.8	攝氏 37.5	華氏 99.5
樺太	攝氏 17.9	華氏 64.2	攝氏 17.8	華氏 64.0	攝氏 37.5	華氏 99.5
大泊	攝氏 13.2	華氏 55.8	攝氏 12.8	華氏 55.0	攝氏 28.5	華氏 83.3
關東州	攝氏 11.0	華氏 51.8	攝氏 11.1	華氏 52.0	攝氏 28.5	華氏 83.3
旅順	攝氏 10.0	華氏 50.0	攝氏 10.1	華氏 50.2	攝氏 35.4	華氏 95.7
北海道						
函館	攝氏 8.8	華氏 47.8	攝氏 8.5	華氏 47.3	攝氏 33.5	華氏 92.3
札幌	攝氏 7.1	華氏 44.8	攝氏 6.9	華氏 44.4	攝氏 33.4	華氏 92.1
旭川	攝氏 5.6	華氏 42.0	攝氏 5.2	華氏 41.4	攝氏 35.0	華氏 95.0
内地府縣						
那霸	攝氏 23.4	華氏 74.1	攝氏 23.1	華氏 73.6	攝氏 35.5	華氏 95.9
長崎	攝氏 15.7	華氏 60.3	攝氏 15.7	華氏 60.3	攝氏 36.7	華氏 98.1

青森	新 潟	東 京	大 阪
九六	二三八	一四三	一五六
四九二	五五〇	五七五	六〇〇
九三	二二六	一三八	一五〇
四八七	五四七	五六八	五九〇
三六〇	三九一	三六六	三七六
九六八	一〇三四	九七九	九九七
四一八	四二一八	一九一七	四二一八
(1)一九〇	(1)九七	(1)八二	(1)七二
(1)二二	一七一	一八〇	一九六
二四二	三五二	七一	二四一

(1) は零點下を示す。

七 雨 量

臺灣は南北に依り其の降雨期を異にす。即ち北部は十月より翌年三月迄の冬季六箇月、南部は五月より九月に至る夏期五箇月を雨期とす。北部は基隆附近最も降雨量多く、基隆に近き火燒寮(暖暖街より約一里)は一年六千九百耗を以て全島の第一位を占め、且つ世界有数の降雨地として知らる。南部に於ては阿里山の四千耗最多量を示し、降雨量の最も少きは澎湖島にして一年の總量四百八十八耗なり。更に之を内地其他と比較するに、臺灣は全島を通して一般に他の地方よりも降雨量多し。

大正三年 總雨量  
 累年平均 總雨量  
 大正十二年 最大日雨量  
 大正三年最大 日雨量

臺 灣	恒 春	臺 東	臺 南	澎 湖	阿 里 山	臺 中	臺 北
一三七二	一三七二	一三七九	六八五	四八八	二五四三	八四二	一六三九
二二六六	二二六六	一八四八	一七三六	九六七	四、〇〇八	一、六九五	二、〇七二
二三	二三	二二	六六	五七	二八五	六六	三四
七一三五	七一三五	七一三五	八一三	八一三	八一三	六一九	八一〇

新 青  
湯 森

一、九五四  
一、七〇八

一、八二一  
一、三七六

五 四  
六 七

九一三  
九一一

東	大	長	那	內 地 府	旭	札	函	北 海	關 東	大	樺 城	京	釜	朝	火	基	
京	阪	崎	霸	縣	川	幌	館	道	順	州	泊	太	津	城	山	鮮	寮
隆	寮	鮮	山	城	津	太	泊	州	順	道	館	幌	川	縣	霸	崎	阪

一、六〇〇	一、一九五	四九〇	八六〇	七五八	一、二九五	一、二五七	一、二三八	二、〇三五	二、六九四	一、六八五	一、六九七	五、二四四	一、八二八
-------	-------	-----	-----	-----	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

一、四一九	一、二六三	七〇六	七五〇	五六八	一、一五七	一、〇二二	一、〇七三	二、一三四	二、二三三	一、三七〇	一、五六一	六、九三九	二、九一八
-------	-------	-----	-----	-----	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

一、三三	二、二	二、九	四、六	五、九	一、三六	一、七	一、七	二、三九	一、七六	一、〇一	九、八	?	一、三三
------	-----	-----	-----	-----	------	-----	-----	------	------	------	-----	---	------

一〇一	五、一、二四	八、一、一	四、一、二八	九、一、一六	七、一、三一	九、一、一五	九、一、一五	一〇、一、九	八、一、三〇	六、一、九	六、一、九	?	一〇、一、一
-----	--------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	-------	-------	---	--------

# 八人口

臺灣の總人口は大正十二年末現在三百九十七萬人にして、中、内地人十八萬一千人、本島人三百六十七萬九千人、蕃人八萬四千人（蕃地居住）、外國人三萬人なり。  
 大正九年十月一日施行の國勢調査の結果に依れば、帝國の總人口は七千七百萬人を算し、臺灣は三百六十五萬人にして、實に其の四分七厘を占む。（蕃地居住の蕃人を除く）  
 更に臺灣の人口を列國のそれに比すれば、智利（三百七十五萬人）と丁抹（三百二十七萬人）との中間に位す。

## 一 種族別人口（大正十二年末現在）

種族	總數	男	女	百分比
内地人	三九七、〇九八	二〇五、〇七〇	一九五、八三八	一〇〇
本島人	一八二、八四七	一〇〇、八八六	八〇、九六一	四六
蕃人	三六、七七一	一八、三七五	一七、五五五	九三
外國人	八四、一七七	四二、一八〇	四一、九九七	二二
總數	三〇、七〇三	三三、四八九	七三、二四	〇八

本島人中には平地居住の蕃人五萬二百四十三人を合算せり。故に本表の蕃人には蕃地居住の者のみを掲せり。

## 二 内地其他との人口比較（大正十二年末現在）

種族	實數	百分比	一方里に付
臺灣	八〇、四八三、九三三	一〇〇	一八三三
朝鮮	三、九七六、〇九八	四九	一七〇五
樺太	一七、八八四、九六三	二二	一三五〇
北海道	一四〇、三六一	〇二	六〇
内地府縣	二七二、六六〇	三四	四四二
内地府縣	五五、七六四、九〇〇	六九	三、九三四

本表の外租借地としての關東州（州内）は人口七十萬六千六百七十三人を有し、一方里に付人口三千二百四十三人及大正九年十月一日現在南洋群島は人口五萬二千二百二十二人を有し、一方里に付人口三百二十人を算す。  
 北海道及内地府縣は大正十二年九月一日現在なり。  
 朝鮮、樺太、關東州は同廳統計書に依る。  
 北海道、内地府縣は第四十三回帝國統計年鑑に依る。  
 南洋群島は列國國勢要覽に依る。

九 本籍別内地人

臺灣在住内地人の總數は大正九年十月一日施行の國勢調査の結果に依れば、十六萬四千二百七十一人にして、内熊本縣の一萬六千三百五十三人第一位を占め鹿兒島縣は一萬六千二百七十二人を以て之に亞き、福岡縣は遙かに下りて八千八百九十八人を以て第三位に在り、廣島、山口の兩縣順次に亞き其の最も少きは青森縣の二百八十二人なり。

府縣	人口	百分比	順位
熊本縣	一六、三五一	一〇・二	一
鹿兒島	一六、二七二	九九	二
福岡	八、八九八	五四	三
山岡	八、四〇一	五二	四
佐賀	七、四六三	四六	五
東京	六、七八〇	四二	六
長崎	六、三四七	三九	七
宮城	六、〇三八	三七	八
大阪	五、六五七	三四	九
分庫	四、六七五	二八	一〇
兵衛	四、五三四	二八	一一
兵衛	四、四五六	二七	一二

新愛愛岡宮高岐沖石香福島靜和京茨徳三長

歌

湯知媛山崎知阜繩川川島根岡山都島重野

四、三三〇	二六	三
三、八二五	二三	四
三、七三二	一九	五
三、一三四	一七	六
二、八三〇	一七	七
二、七八九	一七	八
二、六五〇	一六	九
二、四三三	一五	一〇
二、四二八	一五	一一
二、四〇一	一五	一二
二、三九〇	一五	一三
二、三二七	一四	一四
二、二九五	一四	一五
二、二〇六	一三	一六
二、一四二	一三	一七
二、一三三	一三	一八
一、九七九	一三	一九
一、九三三	一二	二〇
一、八七三	一二	二一





一 在留外國人

臺灣在留外國人の總數は大正九年十月一日施行の國勢調査の結果に依れば、二萬三千六百六十四人なり。今之が國籍を釋ぬるに、支那人はその大部分を占め二萬三千四百六十七人を算し、英吉利人の八十九人、北米合衆國人の四十二人順次に亞く。

總

支那	英吉利	北米合衆國	西班牙	智利	英領印度	ペネシユラ	比律賓	獨逸	露西亞	瑞典	佛蘭西	葡萄牙
數	那	國	牙	利	度	ラ	賓	逸	亞	典	蘭	牙

三、六六四  
三、四七〇

一 一 二 二 三 四 四 五 〇 二 三 四 九

丁抹	諾威	希臘	加陀	墨拿	伯西	波蘭	濠洲
----	----	----	----	----	----	----	----

本表の外、外國に國籍を有せざる者七百九十九人、國籍不詳三人あり。本表には、調査當日基隆碇泊の外國船乗組員をも含むを以て國籍數比較的多し。



一一一 臺灣語を話す内地人

内地人にして臺灣語を話すもの、数は、明治三十八年の六千八百二十九人より、大正四年の一萬六千五百九十一人に増加し、更に大正九年には一萬七千二百七十三人に増加したるも、その内地人千に對する割合は、大正四年の百二十二分より、大正九年の百五人二分に減退したり。

年	總數		指數		平均	
	男	女	男	女	男	女
明治三十八年	六八元	六〇〇	八〇元	一〇〇	一九二	一七三八
大正四年	一六、五九一	一三、四〇三	三、一八八	二四三	一三五	一七六九
同 九年	一七、七三三	一四、九六六	二、三〇七	二五三	一〇五二	一六二六

本表は第一回及第二回戸口調査並に第一回國勢調査の結果にして、何れも十月一日現在なり。

一一二 國語を解する本島人

本島人にして國語を解するもの、数は、明治三十八年の一萬一千二百七十人より、大正四年の五萬四千三百三十七人に増加し、更に大正九年には九萬九千六十五人に増加したるも、尙ほ本島人千に對し、僅かに二十八人六分を算するに過ぎず。

年	總數		指數		平均	
	男	女	男	女	男	女
明治三十八年	一、二七〇	一〇、八〇一	四六元	一〇〇	三八	六八
大正四年	五、四三三	五〇、一四三	四、一九四	四八二	一六三	二九二
同 九年	九、〇六五	八七、八九七	二、二六六	八七九	二八六	四九三

本表は第一回及第二回戸口調査並に第一回國勢調査の結果にして、何れも十月一日現在なり。

一四 婚姻、離婚、出生、死亡

臺灣に於ける最近十二年間の婚姻、離婚、出生及死亡を觀るに、婚姻は大正元年の三萬七千九百より、大正十一年には三萬七千八百に減したるも、大正十二年には三萬九千四百に増加し、離婚は同しく五千より、四千三百に減し、出生は年により多少の差異あるも、大正十一年迄は大體に於て増加の傾向を有したりしが、大正十二年には十五萬四千人に減少したり。死亡は年に依り非常の相違あり、大正七年の如き十二萬五千人の多きに達したるも、大正十二年には八萬四千人に減退したり。従つて出生の死亡超過數は年により甚しき懸隔あり、大正七年の如き僅かに二萬人に過ぎざりしか、大正十二年には約七萬人に達したり。

年	婚姻	離婚	出生(生産)	死亡	自然増加 (出生超過)
大正元年	三七,九一九	五,〇八二	一四〇,四九八	八四,九六三	五五,五三五
同 二年	三六,一六七	五,一六〇	一四二,三七九	八六,六二〇	五四,七六九
同 三年	三三,九七七	四,六六四	一四六,一三六	九七,五二一	四八,六一五
同 四年	三八,五八六	五,一九五	一四二,五〇五	一一二,二二三	三〇,三三二
同 五年	三七,六〇四	五,四四五	一三三,七二七	一〇三,五一九	三一,一九八
同 六年	三八,〇九五	五,〇七八	一四八,二〇九	九七,九四九	五〇,二六〇
同 七年	四〇,九〇二	四,九六八	一四五,一六二	一二四,六七七	二〇,四八五
同 八年	三八,三四一	五,一六五	一四二,三二〇	九八,九九一	四三,三二九

同 九年	四〇,九二五	四,七二二	一四七,三〇八	一一九,四七七	二七,八三一
同十年	四〇,八二九	四,六五八	一六一,九八七	九一,五二三	七〇,四七四
同十一年	三七,八三一	四,一二五	一六一,八二九	九五,三七二	六六,四五七
同十二年	三九,四八〇	四,三三八	一五四,〇七八	八四,一〇八	六九,九七〇

一五 出生率

臺灣の出生率は之を最近十二年間に就て觀るに、年に依りて高低常ならずと雖、大正十年には人口千に付四十三人二分を以て最高度を示す。又之を内地人のみに就て觀るに、逐年増加の趨勢にありしものか、大正七年以來降下の傾向を示せしも、大正十年には再び増加の傾向に復したりしか、大正十二年には復た三十五人に降下せり。本島人の出生率は特に高低常ならずしも、大正十年には四十三人七分を以て最近十二年間の新記録を示せしか、大正十二年には四十人に降下せり。

更に之を内地其の他と比較するに、大正十一年以前は臺灣は其の割合最も高くして、北海道と稍一致し、内地府縣は我臺灣に於ける内地人のみの出生率と相似たる所あり。又列國中出生率の最も高きは智利の三十八人四分、大正十一年なるが故に、我臺灣の出生率は世界に於て最も高き部類に屬す。

一 出生率 (人口千に付生産)

大正	平均	内地人	本島人	外國人
大正元年	四一九	二九八	四三五	二二八
二年	四一四	三〇七	四三〇	一五五
三年	四二二	三〇八	四三八	一六〇
四年	四〇九	三三七	四一四	一八八
五年	三八二	三五五	三八四	一八六

同	六年	四一六	三七四	四一九	一九二
同	七年	四〇五	三五四	四〇九	二〇三
同	八年	三九二	三五三	三九六	二二二
同	九年	四〇一	三五八	四〇六	二二六
同	十年	四三二	三五二	四三七	二四五
同	十一年	四三三	三六九	四三八	二四七
同	十二年	三九六	三五〇	三九九	二二七

二 内地其の他との出生率累年比較 (人口千に付)

臺灣	朝鮮	樺太	關東州(州内)	北海道	内地府縣
大正元年	四一九	二八九	三三〇	三三三	四三五
同二年	四一四	二九七	三四二	三四二	四三五
同三年	四二二	二八二	三二九	三四三	四〇九
同四年	四〇九	二七三	三四七	三四二	四三〇
同五年	三八二	三三八	三三七	三三九	四三七
同六年	四一六	三三八	三三二	三三二	四一九
同七年	四〇五	三四〇	三二八	三三〇	四〇四
同八年	三九二	二七八	二八四	二九八	三七〇
同九年	四〇一	二七六	三五二	三二八	四一三

同十年	四三二	三九七	三三三	三九九	三九五	三四九
同十一年	四三三	三三八	三三三	三三〇	三七四	三四九
同十二年	三九六	四〇二	三三三	三〇四	?	三四三

朝鮮、樺太、關東州は同廳統計書に依り算出す。  
北海道、内地府縣は第四十三回帝國統計年鑑に依り算出す。

一六 死亡率

臺灣の死亡率は之を最近十二年間に就て觀るに、一般に増加の傾向ありしも、大正十年には著しく低下し、更に大正十二年には人口千に付二十一人六分を以て最低の新記録を示せり。内地人の死亡率は之を本島人に比すれば甚だ低く、大正十二年には本島人二十二人一分なるに對し、内地人は僅かに十一人七分を示せり。更に之を内地其の他と比較するに、大體に於て死亡率の最も低きは北海道にして、關東州(州内)之に亞き、朝鮮は内地府縣と稍一致し、我臺灣は樺太と相似たる所あり。又列國中死亡率の最も高きは、智利及西班牙等にして大正十一年には智利二十八人四分、西班牙二十人五分を示せり。

一 死亡率 (人口千に付)

大正元年	同二年	同三年	同四年	同五年	同六年	同七年
平均	三五三	三五三	二八一	三三三	二九三	二七五
内地人	一五八	一五三	一五〇	一七三	一六〇	一六五
本島人	三五八	三五八	二六七	三三九	三〇八	三五五
外國人	一五四	一五二	一九五	一九四	一六八	二七七

同八年	同九年	同十年	同十一年	同十二年
二七三	三三五	二四四	二五〇	二二六
一六八	一九二	一三九	一三三	二一七
二七八	三三三	二五〇	二五六	三三二
二〇八	三三三	一九六	一九四	二六二

二 内地其他との死亡率累年比較 (人口千に付)

大正元年	同二年	同三年	同四年	同五年	同六年	同七年	同八年	同九年	同十年	同十一年
二五三	二五三	二八二	三三二	二九三	二七五	三四八	二七三	三三五	二四四	二五〇
一六〇	一八〇	一九三	二二二	三三三	二四二	三〇七	三三九	二三四	一九八	二二四
三五	二八五	二四五	三三九	二八五	二七二	三六三	三三二	三三二	二五七	二〇二
二〇三	二〇三	二二七	一九八	二八二	三三〇	二七二	三三七	一八四	二七七	一八四
二〇八	一九四	二〇四	一九〇	二〇八	二〇五	二四九	二二九	二二九	一八三	一七六
一九八	一九三	二〇四	二〇〇	二〇四	二〇四	二六四	二四四	二四六	三三九	二二五

臺灣

朝鮮

樺太

關東州(州内)

北海道

内地府縣

同十二年 二二六 二〇五 二四六 一八八 ? ?

朝鮮、樺太、關東州は同廳統計書に依り算出す。  
北海道、内地府縣は第四十三回帝國統計年鑑に依り算出す。

### 一七 人口の増加

臺灣の人口は、明治三十八年十月一日施行の第一回戸口調査の結果に依れば、三百萬なりしものか、大正元年には三百三十五萬に増加し、更に大正十二年には三百八十九萬に達し過去十二年間に一割六分の増加を示せり。

更に人口増加の趨勢を内地其の他と比較するに、増加の割合最も大なるは樺太にして、北海道之に亞き、關東州は第三位を占め、大正八年迄は臺灣と内地とは殆んど其の歩調を一にす。

#### 一 最近十二箇年間の人口 (各年末現在)

年	總數	男	女	指數
大正元年	三,三三三,九四三	一,七六三,四八四	一,五九〇,四五九	一〇〇
同二年	三,四一八,二七〇	一,七九四,八〇八	一,六三三,四六三	一〇二
同三年	三,四六八,七一九	一,八一八,〇五六	一,六五〇,六六三	一〇三
同四年	三,四八三,二六六	一,八二四,九四四	一,六六八,三三二	一〇四
同五年	三,五〇,一一〇	一,八二四,一五〇	一,六八五,九六〇	一〇五
同六年	三,五〇,〇五〇	一,八四六,四四五	一,七二三,六〇五	一〇六
同七年	三,五八三,三九五	一,八五六,一七八	一,七二七,二二七	一〇七
同八年	三,六三〇,三八五	一,八七八,八二〇	一,七五一,五七五	一〇八
同九年	三,六七三,二九〇	一,九〇二,七九〇	一,七七〇,五〇〇	一〇九

同十年	三,七五一,二二七	一,九四一,五八二	一,八〇九,六三五	一一一
同十一年	三,八二一,五六八	一,九七四,八二四	一,八四六,七一四	一一四
同十二年	三,八九一,九二二	二,〇〇八,〇九〇	一,八八三,八三一	一二六

蕃地居住の、蕃人を除き、平地居住の蕃人は之を算入せり。

#### 二 内地其の他との累年人口指數 (各年末現在)

年	臺灣	朝鮮	樺太	關東州(州内)	北海道	内地府縣
大正元年	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
同二年	一〇三	一〇四	一〇五	一〇三	一〇四	一〇一
同三年	一〇三	一〇七	一〇六	一〇四	一〇八	一〇三
同四年	一〇四	一一〇	一〇四	一〇八	一一〇	一〇四
同五年	一〇五	一一二	一〇七	一一一	一一四	一〇五
同六年	一〇六	一一四	一〇九	一一四	一一五	一〇七
同七年	一〇七	一一五	一一〇	一一六	一二〇	一〇六
同八年	一〇八	一一六	一一一	一二〇	一二三	一〇七
同九年	一一〇	一一七	一一二	一二三	一二五	一〇六
同十年	一一二	一二〇	一一三	一二三	一二六	一〇七
同十一年	一一四	一二一	一一五	一二七	一二九	一〇九
同十二年	一二六	一二二	一二三	一二四	一二六	一一〇

鮮朝、樺太、關東州は同廳統計書に依る。  
北海道、内地府縣は第四十三回帝國統計年鑑に依る。

一八 蕃 人

臺灣の蕃人は之をダイヤル、サイセツト、アメン、ツオウ、パイワン、アミ及ヤミの七種族に分つ。大正十二年末現在蕃社數は七百十九、戸數二萬二千五百六十八、人口十三萬四千人なるも、就中五萬二百四十三人は平地の蕃社に居住するか故に、實際蕃地に居住するもの數は八萬四千七百七十七人なり。  
各種族中人口最も多きはパイワン族にして、總人口の三割一分一厘を占め、アミ族の二割八分九厘、ダイヤル族の二割三分五厘等順次之に亞く。

種族	總數	男	女	百分比例
總數	一三四、四二〇	六七、〇〇四	六七、四一六	一〇〇.〇
ダイヤル	三一六〇〇	一五、四一九	一六、一八一	二三.五
サイセツト	一、二九六	六一〇	五八六	〇.九
アメン	一七、四〇〇	八、九三三	八、四七八	一三.〇
ツオウ	二、〇〇七	一、〇五六	九五一	一.五
パイワン	四一、八二三	二〇、九一三	二〇、九〇〇	三二.一
アミ	三八、八九九	一九、二九三	一九、五九六	二八.九
ヤミ	一、五二五	七九一	七三四	二.二

本表中、平地の蕃社に居住する蕃人五萬二千四百四十三人は本島人として人口統計に計上せらる。

一九 行政區劃

臺灣の地方行政區劃は、幾多の變遷を経たる後、大正九年九月一日に至り、地方官官制に根本的改正を加へたり。即ち從來の十二廳を五州二廳に改め、現に五州は之を五市、四十六郡に分ち、郡の下には三十二街、二百二十六庄を置き、二廳は之を七支廳に分ち、支廳の下には二街一庄十九區を置き、以て從來の行政區域を全く一變したり。

全	臺北	新竹	臺中	臺南	高雄	臺東	花蓮	澎湖	基隆
郡	九	八	二	〇	八	一	一	一	一
支廳	七	一	一	一	一	一	一	一	一
市	五	二	一	一	一	一	一	一	一
街	三	四	五	四	〇	八	一	一	一
庄	三七	三	五	五	五	四	一	一	一
區	九	一	一	一	一	一	一	一	一

本表は大正十三年十二月末現在とす。



二〇 州及廳の面積

五州二廳中、面積の最大なるは、臺中州の四百七十八方里餘にして、高雄、臺南、花蓮港、新竹、臺北の順序を以て之に亞き、臺東廳は二百二十四方里を以て最小の地位を占む。

今之を内地府縣に比較すれば、臺中州は熊本、宮城の中間に、高雄州は山口、三重の中間に、臺南州は愛媛、千葉の中間に、花蓮港廳、新竹州及臺北州は和歌山、京都の中間に、臺東廳は鳥取、佐賀の中間に位す。

一 州及廳の面積

全	臺北	新竹	臺中	臺南	高雄	臺東	花蓮
二、三三三・三九	二九六・〇三	二九八・二六	四七八・七一	三五一・五一	三八三・〇七	二四八・三	二〇二・〇
	一〇〇・〇	一二七	一三八	二〇五	一五二	一六四	九六
	三三・九						

面積

百分比

二 内地府縣との面積比較

熊本	宮城	山形	高松	三重	愛媛	千代	和歌	花	新	新	京	鳥	臺		
縣	縣	縣	州	縣	縣	州	縣	縣	州	州	府	縣	廳		
48,189	47,871	47,245	39,464	38,307	36,970	36,950	35,151	33,929	30,685	30,010	29,826	29,603	29,556	26,944	24,833
5	6	7	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27

面積

順位

佐賀縣 順位は、一道三府四十三縣及州、廳の面積の順位を示す。

15,843

28

### 一一 州及廳の人口

五州二廳中、人口の最多なるは臺南州の百萬六千人にして、臺中州は八十五萬四千人を以て之に亞き、以下臺北、新竹、高雄、花蓮港、臺東の順序を以てし、一方里の人口は同しく臺南州二千八百六十三人を以て最高度を示し、花蓮港廳の二百八人最も低し。今之を内地府縣に比較すれば、臺南州は山口、山形の中間に、臺中、臺北の兩州は大部分、青森の中間に、新竹州は滋賀、山梨の中間に、高雄州は山梨、沖繩の中間に位し、花蓮港及臺東の兩廳は、人口餘りに少くして比較すべき類似の府縣なし。

#### 一 州及廳の人口 (大正十二年末現在)

全	實數	百分比	一方里に付
臺北	三九七、〇九八	一〇〇・〇	一七〇・五
新竹	八〇一、五三三	二〇二	二七〇・七
臺中	六〇二、二七六	一五二	二、〇〇〇
臺南	八五四、一四二	二二五	一、七八四
高雄	一、〇〇六、四五二	二五三	二、八六三
高臺	五九七、〇八五	一五〇	一、五五九
臺東	五三、二七五	一三	二、三三
花蓮港	六三、四四六	一六	二〇八

本表中には蕃地居住の蕃人を含む。

### 二 内地府縣との人口比較

(内地府縣は大正十二年一月一日現在推計)

山	臺	山	大	臺	青	滋	新	山	高	沖	花	臺
口	南	形	分	中	北	賀	竹	梨	雄	繩	蓮	東
縣	州	縣	縣	州	州	縣	州	縣	州	縣	廳	廳
一、〇五八、〇〇〇	九八九、八〇〇	八七一、一〇〇	八五四、一四二	八〇一、五三三	七八一、六〇〇	六五五、五〇〇	六〇二、一七六	六〇二、〇〇〇	五九七、〇八五	五九六、九〇〇	六二、四四六	五三、二七五

内地府縣は第四十三回帝國統計年鑑に依る。

一一一 主要都市

臺灣には三市、三十六街あり。就中人口二萬以上の市及街は二十にして、その第一位を占むるは臺北市の十八萬六千、之に亞くは臺南市の八萬三千、基隆街の五萬六千、嘉義街の四萬二千、高雄街の三萬九千、臺中市の三萬八千、新竹街の三萬六千等なり。而して東部に於ける廳所在地たる臺東街は僅かに八千二百、同じく花蓮港街は七千百を有するのみなり。(大正十二年末現在)

次に州及廳の所在地たる三市、四街を内地其の他の都市に比較するに大正九年十月一日現在に依れば、我が臺北市は東京、大阪、神戸、京都、名古屋、横濱、京城、長崎の八市に亞ひて實に第九位を占め、廣島市の上に位し、臺南市は和歌山、静岡兩市の中間に、高雄街は四日市、弘前兩市の中間に、新竹街及臺中市は弘前、大津兩市の中間に位す、而して臺東、花蓮港の兩街は共にその人口樺太の首府豊原よりも少し。

一 主要都市の人口 (大正十二年末現在)

	總數	内地人	本島人	外國人	順位
臺北市(臺北州)	一八六、七六八	五二、七七七	一三三、九三三	一三、二二九	一
臺南市(臺南州)	八三、四九七	一三、七八九	六七、一七三	二、五三五	二
基隆街(臺北州)	五六、二五八	一四、二〇六	三九、二六五	二、七八七	三
嘉義街(臺南州)	四三、二九三	六、一七四	三五、二二七	九〇二	四
高雄街(高雄州)	三九、八五〇	一〇、二三六	二八、八七六	八三八	五

臺中市(臺中州)	三、八〇九四	九、九二七	二七、四五六	七二	六
新竹街(新竹州)	三、六三七七	三、八〇三	三三、一六五	四〇九	七
鹿港街(臺中州)	三、一九七六	二、四三三	三三、五三七	一九六	八
斗六街(臺南州)	二、五、八九一	八三三	二四、九五五	一〇三	九
大溪街(新竹州)	二、五、六三〇	四〇〇	二五、一六二	五八	〇
清水街(臺中州)	二、五、五八五	三六〇	二五、一八五	四〇	一
麻豆街(臺南州)	二、四、二七八	四七一	二三、七七八	二九	二
屏東街(高雄州)	二、四、三三三	二、九七三	二〇、七二一	五三八	三
埔里街(臺中州)	二、三、五六四	一、二七四	二二、〇六〇	二三〇	四
豐原街(同)	二、三、九九九	五四五	二二、三三二	一二二	五
員林街(同)	二、三、五四一	五〇三	二二、九二五	一一三	六
南投街(同)	二、二、五四〇	六七五	二〇、八〇四	六一	七
宜蘭街(臺北州)	二、一、三七九	一、八六八	一九、三二八	一八三	八
淡水街(同)	二、一、三三三	七二〇	二〇、三〇六	三一七	九
馬公街(高雄州)	二、〇、四五二	二、三〇三	一八、一一四	三五	〇
臺東街(臺東廳)	八、二、二四	一、六五二	六、三三一	三三一	二
花蓮港街(花蓮港廳)	七、一、六〇	三、四三三	三、四〇一	三三七	三

本表には、人口二萬以上の市及街のみを挙げ、且つ廳所在地たる臺東、花蓮港兩街を掲ぐ。

京長臺廣和臺靜釜平四高弘新臺大大豊  
 城崎北島山南岡山壤市雄前竹中津泊  
 日 歌

二 内地其の他の都市との人口比較 (大正九年十月一日現在)

城崎	二五〇、二〇八
北島	一七六、五三四
山崎	一六二、七八二
山南	一六〇、五一〇
山岡	八三、五〇〇
山壤	七六、五六〇
山崎	七四、〇九三
山崎	七三、八五五
山崎	七二、七〇三
山崎	三五、一六五
山崎	三五、〇五三
山崎	三三、七六七
山崎	三一、九三四
山崎	三一、五三九
山崎	三一、四五三
山崎	一〇、四三六
山崎	八、三四三

臺東  
花蓮港

(八二四) 六九八四  
(七、六〇) 五七五五

括弧内の數字は大正十二年末現在なり。  
朝鮮、樺太は大正九年末現在にして、同廳統計書に依る。  
内地府縣は第四十三回帝國統計年鑑に依る。

一三三 農業戸數

臺灣の農業戸數は三十八萬八千戸にして、總戸數の約五割三分を占め、農業者一戸當平均耕地面積は一町九段約二甲に當る。  
今之を内地其の他と比較するに、總人口に對する農業戸數の割合最も大なるは、朝鮮の七割九分四厘にして、臺灣は第二位を占め、樺太は僅かに二割七分餘を以て最下位に在り。

農業者一戸當平均耕地面積の最も大なるは北海道の四町八段にして、樺太の二町五段之に亞き臺灣は第四位を占め、内地府縣は一町歩を以て最下位に在り。

臺東	朝鮮	樺太	關東州(州内)	北海道	内地府縣
三八八、四九二	二七〇、八三八	七、三五四	五三、一九五	一七三、五三九	五三六、四九一
五三九	七九四	二七〇	四七八	三三二	四七二
一九	一六	三五	三四	四八	一〇
農業戸數一戸當耕地面積					

本表は大正十二年末の事實とす。  
北海道、内地府縣の總戸數は平均一世帯人口を以て算出す。  
朝鮮、樺太、關東州は同廳統計書に依る。

北海道、内地府縣は第四十次農商務統計表に依る。

### 二四 耕地面積

臺灣の耕地は總面積の二割餘を占め、其の面積は七十五萬八千町歩（七十七萬四千甲）にして、内、田三十六萬八千町歩（三十七萬六千甲）畑三十八萬九千町歩（三十九萬七千甲）なり。

今之を内地其の他と比較するに、耕地面積の總面積に對する割合の最大なるは、關東州の三割七分二厘にして、臺灣は之に亞き、朝鮮の一割九分四厘はその第三位を占む。耕地の内、田の割合畑より大なるは内地府縣のみにして、樺太の如きは全然田を有せず。

總數	耕地面積		百分比	
	田	畑	田	畑
臺灣	七五八、三四一	三六八、四七八	四八六	五一四
朝鮮	四、三〇、八六四	一、五四九、四六一	三五九	六四一
樺太	一六、九六一	—	—	一〇〇〇
關東州（州内）	二、五九、八九	四九六	〇・四	九九六
北海道	八六、四七	二八、一三〇	一四三	八五七
内地府縣	五、三三、五七六	二、九四、三八九	五六八	四三二

本表は大正十二年末の事實とす。

朝鮮、樺太、關東州は同應統計書に依る。  
北海道、内地府縣は第四十次農商務統計表に依る。

二五 水利

臺灣に於ける埤圳の數は、一萬二千二百三にして、内、水利組合九十六、公共埤圳七、認定外埤圳一萬二千百なり。又其の灌漑面積は三十三萬七千甲にして、内、其の五割は水利組合の灌漑に屬す。

總數	埤圳數	灌漑面積	灌漑面積 百分比例
水利組合	一二、二〇三	三三、七、五二九 <sup>甲</sup>	一〇〇・〇
公共埤圳	七	一八、二、七〇九	五四・一
認定外埤圳	二二、一〇〇	五九、〇七六	一七・五
		九五、七四三	二八・四

本表は大正十三年四月一日現在の事實とす。



二六 農 産

臺灣の農産物は、大正十二年中の總生産價額一億六千二百六十萬圓にして、内、普通作物一億三百二十萬圓、特用作物四千九百萬圓、園藝作物千七百四十萬圓なり。  
 更に之を作物別に觀るに、米は八千五百六十八萬圓を以て第一位を占め、甘蔗は三百萬圓を以て之に亞き、甘藷の千五百五十五萬圓、蔬菜類の七百二十七萬圓、苧蕉の六百九十八萬圓、茶の六百二十九萬圓、落花生の百七十三萬圓、柑橘の百三十七萬圓、豆類の百三十五萬圓等順次之に亞く。

總額	生産價額	百分比例	作付面積	收穫高
總額	一六二,五九三,五四九	一〇〇〇	甲	—
普通作物	一〇三,二〇二,七四八	六三五	—	—
米(玄米)	八五,六八三,六〇〇	五二七	—	—
甘藷	一五,五五一,〇八五	九六	—	—
豆類	一,三四八,〇五一	〇八	—	—
小麥	二四五,二三〇	〇二	—	—
其他	二七四,七八二	〇三	—	—
特用作物	四一,九二五,八七九	二五八	—	—
甘蔗	三二,〇五〇,三八七	一九二	—	—
苧蕉	—	—	—	—
茶	—	—	—	—
落花生	—	—	—	—
煙草	—	—	—	—
黃麻	—	—	—	—
苧麻	—	—	—	—
胡麻	—	—	—	—
藍	—	—	—	—
其他	—	—	—	—
園藝作物	—	—	—	—
苧	—	—	—	—
柑	—	—	—	—
龍眼	—	—	—	—
檳榔	—	—	—	—
鳳梨	—	—	—	—
椰子	—	—	—	—
李	—	—	—	—
蔬菜	—	—	—	—
其他	—	—	—	—
蠶繭	—	—	—	—

茶	六,二九一,八九八	三九	—	—
落花生	一,七三四,六五三	一〇	—	—
煙草	八四五,七八八	〇五	—	—
黃麻	五五二,四一四	〇三	—	—
苧麻	六六二,四四三	〇四	—	—
胡麻	二二二,二三一	〇二	—	—
藍	一七二,一八二	〇一	—	—
其他	三八四,八八三	〇三	—	—
園藝作物	一七,四〇三,七三三	一〇七	—	—
苧	六,九八三,一〇六	四三	—	—
柑	一,三六九,四七七	〇八	—	—
龍眼	六八九,一一五	〇四	—	—
檳榔	二五〇,二八〇	〇二	—	—
鳳梨	三三五,七八七	〇二	—	—
椰子	一八六,四四一	〇一	—	—
李	一四七,四二七	〇一	—	—
蔬菜	七,二七六,四三七	四五	—	—
其他	一六五,六六三	〇一	—	—
蠶繭	六一,一八九	〇	—	—

二七 畜 産

臺灣の畜産物生産總價額は大正十二年に二千九百萬圓を算し、内、家畜生産二千四百七十萬圓、家禽生産四百萬圓、牛乳二十九萬圓なり。  
 家畜生産中、豚は二千二百七十萬圓を以て第一位を占め、水牛の百二十六萬圓之に亞き、家禽生産中第一位を占むるは鶏の三百十六萬圓なり。

生産價額

生産價額  
百分比例

總	額	二九、〇三三、六六八
家畜	額	二四、六九二、六五二
水牛	額	一、二六二、三三五
黄牛	額	三六八、一二六
其他の牛	額	九一七、七三五
豚	額	三、六九〇、八七七
山羊	額	二、五六、九九九
其他	額	二、三五九、〇
家禽	額	四、〇四八、六八〇
鷄	額	三、一六二、九五二
鶩	額	六四七、〇〇八

總	百分比例	一〇〇
家畜	百分比例	八五・一
水牛	百分比例	四・三
黄牛	百分比例	一・三
其他の牛	百分比例	〇・三
豚	百分比例	七・八
山羊	百分比例	〇・九
其他	百分比例	〇・一
家禽	百分比例	一三・九
鷄	百分比例	一〇・九
鶩	百分比例	二・二

蠶 七 面 鳥  
牛 乳

三〇二四六  
八、四七五  
二九二、三三六

〇八  
〇〇

二八 林 産

臺灣の林産物生産總價額は、大正十二年に一千二百萬圓を算し、内、官行生産價額三百五十萬圓、一般生産價額八百六十萬圓なり。  
官行生産價額中第一位を占むるは丸太の百九十萬圓にして、一般生産價額中にては薪の二百九十萬圓第一位を占む。

品名	價額	價額百分比
總額	三、二九〇、一六九	一〇〇.〇
官行生産價額	三、五五九、九六六	二九三
丸太	一、八九九、一六七	一五六
製材	一、五九九、六四九	一三一
副生品	六一、一五〇	〇.五
一般生産價額	八、六三〇、二〇三	七〇八
木材	一、八六二、五二四	一五四
竹材	一、一四九、九一四	九四
藤材	一七六、五八五	一.四
木炭	九六〇、一六〇	七.九
薪	二、九〇三、三二〇	二三八
荷薪	五〇四、四三二	四.二

薑 薯 蓮  
 姜 椰 草  
 其 他

一四、五〇七  
 三三、七八七  
 二二、二五二  
 八三、七三二

〇・一  
 〇・三  
 一・七  
 六・七

官行生産價額には營林所に於ける賣拂價額を掲上す。

二九 鑛 産

臺灣の鑛産總價額は大正十二年に一千二百九十萬圓を算し、内、石炭は總産價額の八割強、即ち一千四百四十萬圓を以て第一位を占め、金は五十四萬圓を以て之に亞き、銅の五十萬圓、石油の十八萬圓等順次之に亞く。

品名	産 額	價 額	價額百分比
石 炭	一、四四四、九二噸	三、九二〇、八六三	一〇〇・〇
金 銅	一〇九、七七三匁	一、四二五、五〇〇	八八・四
石 油	一、二七八、一五八斤	五、四八、八六五	四・三
銅	一四、〇一九石	五、四〇、九六四	四・二
金	一、二四八、六〇一貫	一、八六、七四三	一・四
硫 磺	一、二四八、六〇一貫	一、四七、〇三八	一・二
銀	一、二三、一四〇貫	四、九五五	〇
砂 金	一、八八四、四八八斤	四、三、八〇七	〇・三
砂 鐵	一、五二、八八七匁	二、四、八八三	〇・二
鐵	二、二二五匁	七、九六五	〇・一
砂	三、三三五斤	一、四三	〇

Faint, illegible text on page 70, likely bleed-through from the reverse side.

三〇 水 産

臺灣の水産總價額は大正十二年には一千五百八十萬圓以上に達し、内、水産漁獲物九百萬圓、養殖場漁獲物百九十萬圓、水産製造物三百三十萬圓、製鹽百五十萬圓なり。  
更に之を品目別に觀れば、鯉節の二百三十萬圓第一位を占め、鮪仔の百六十萬圓、加納魚、卓錫の各百五十萬圓、虱目魚の百十五萬圓等順次之に亞く。

水産漁獲物	總 額	價 額	價額百分比
加 <sup>ダ</sup> 納 <sup>ツ</sup> 魚 <sup>ヒ</sup>	一、五八〇、二〇五	一〇〇・〇	五七・二
加 <sup>ダ</sup> 納 <sup>ツ</sup> 魚 <sup>ヒ</sup>	九、〇三〇、六五一	九七	九七
卓 <sup>カ</sup> 錫 <sup>ツ</sup>	一、五四〇、五八八	九八	九八
鯉 <sup>イ</sup> 節 <sup>シ</sup>	一、五四六、九〇八	四三	四三
鮪 <sup>イ</sup> 仔 <sup>シ</sup>	六七三、三七一	四八	四八
沙 <sup>フ</sup> 魚 <sup>カ</sup>	七五七、七六五	二六	二六
烏 <sup>キ</sup> 魚 <sup>ラ</sup>	四〇八、八一八	〇九	〇九
塗 <sup>リ</sup> 魚 <sup>ラ</sup>	一四二、〇六九	一〇六	一〇六
鮪 <sup>マ</sup> 仔 <sup>ロ</sup>	一、六七九、八五七		

其他

養殖場漁獲物

虱目魚

鯉魚

草魚

刺子

烏魚

鰻魚

其他

水產製造物

鯉節

煮干

蒲鉾

鱈仔

鱈

二二八二、二七五

一九四三、五六五

一、一五七、七、五

一八六、四八九

一〇六、七八〇

二九八、八三五

七八、八〇七

六八、五六七

四六、三八二

三、二九九、五一四

二、三六一、五〇三

三六〇、七八七

一五一、〇二一

八六、六八九

九一、九九五

一四四

一二三

七三

一二

〇七

一九

〇五

〇四

〇三

二〇九

一四九

二三

一〇

〇五

〇六

製其他  
鹽

二四七、五一九

一、五三〇、四七五

一六

九七

三一 工業 產

臺灣の工業總生産價額は大正十二年に二億四百萬圓を算し、内、砂糖の一億四千萬圓は群を抜いてその第一位を占め、再製茶の九百萬圓、酒精の四百五十萬圓、セメントの四百萬圓等順次之に亞く。

總額	生産價額	生産價額 百分比例
砂糖	二〇四、一二五、五六	一〇〇〇
酒精	一四一、七二九、五〇三	六九五
再製茶	四、五二二、五五七	二二
鐵工及鑄物等	九、一三六、一七五	四五
木製品	三、二六五、八三三	一六
セメント	三、〇〇四、五二六	一五
染色類	四、一四三、七八四	二〇
麵類	一、八三九、六六五	〇九
煉瓦	二、〇八六、七五五	一〇
調合肥料	一、四八一、三六一	〇七
金銀細工	二、二六八、六七一	一一
味噌及醬油	一、二七七、二〇四	〇六
	一、八〇三、八九二	〇九

油及油糟	二、三三六、六九〇	一一
數瓦及屋根瓦	八二六、二九七	〇四
金銀紙	八八二、九八三	〇四
製粉	一、八二四、四二二	〇九
綿布、麻布類	一、六九六、三三三	〇八
糖蜜	四、七五〇、三八四	二三
帽子	八五〇、九七三	〇四
靴	八三〇、二七五	〇四
板狀樟腦	一、六三八、七二二	〇八
其他	二、〇四四、五五三	〇八

三三二 糖業

臺灣の糖業は大正十三年期に於て、公稱資本額二億七千萬圓、作業工場數百六十一、許可作業能力三萬五千五百七十九英噸を有し、其の製糖高七億五千三百萬斤に達す。就中新式製糖會社の數は十三にして作業工場數四十四、許可作業能力三萬三千三百五十九英噸を有し、その製糖高七億三千八百萬斤を算す。

總數	公稱資本金	作業工場數	許可作業能力	製糖高	製糖高百分比
新式製糖會社	二七,二〇〇,〇〇〇	一六一	三五,五七九	七五三,六八二,八六四	一〇〇〇
臺灣製糖	二七,二〇〇,〇〇〇	四四	三三,三五九	七三八,七七七,六八九	九八〇
東洋製糖	六三,〇〇〇,〇〇〇	一〇	八一〇五	一六七,〇一〇,〇一〇	三三一
明治製糖	三六,二五〇,〇〇〇	六	四,三七〇	九四,七四三,七二〇	二二六
帝國製糖	三七,五〇〇,〇〇〇	五	四,七九五	一〇四,七六四,六〇〇	一三九
新高製糖	一八,〇〇〇,〇〇〇	五	二,八八八	七七,七三〇,六〇〇	一〇三
鹽水港製糖	二八,〇〇〇,〇〇〇	三	二,九三三	六三,一九一,九〇〇	八四
大日本製糖	二五,〇〇〇,〇〇〇	六	四,五〇〇	九五,五八〇,二七八	一二七
臺南製糖	二七,二五〇,〇〇〇	二	二,二〇〇	八二,一九九,四五〇	一〇九
新竹製糖	二〇,二五〇,〇〇〇	二	一,二七〇	六,七三九,八四四	〇九
總計	七,五〇〇,〇〇〇	一	五〇〇	三,六九三,三〇〇	〇五

林本源製糖	三,〇〇〇,〇〇〇	一	七五〇	二六,七七六,二〇〇	三六
沙撈越製糖	二,五〇〇,〇〇〇	一	三〇〇	四,五四七,一〇〇	〇六
臺東製糖	一,七五〇,〇〇〇	一	三五〇	二,二三七,一八七	〇三
新興製糖	一,二〇〇,〇〇〇	一	五〇〇	九,五三三,五〇〇	一二
改良糖廊	—	三	一,一八〇	六,七二四,〇二六	〇九
舊式糖廊	—	四	一,〇四〇	八,三二一,二四九	一二

大正十三年期とは大正十二年十一月より同十三年十月に至る期間を云ふ。



三三三 貿易

臺灣の貿易は之を外國貿易及内地貿易(臺灣内地間貿易)の二種に分つべきも、今之を總括すれば明治三十年の三千一百萬圓より大正元年の一億二千五百萬圓に進みたり。然るに大正二、三の兩年は砂糖の減産と一般商況の不振に依り少しく減退したるも、大正五年には世界大戰の影響を受けて、一億七千七百萬圓に達し、大正六年には二億圓臺に上り、大正八年には更に三億圓臺を突破し、翌大正九年には三億八千九百萬圓と云ふ新記録を作り、之を大正元年に比すれば實に二十一割の増加にして、人口一人當百六圓を算す。然るに大正十年及同十一年には世界經濟界の不況に伴ひ再び二億七、八千萬圓に減退したりしも、大正十二年には復た三億圓臺に上れり。

次に貿易總額に對する内外兩貿易の割合を觀るに、内地貿易は常に過半數を占め少きも七割、多きは七割八分に達す。

一 貿易總表

年	總額	指數	百分比		平均一人當
			外國貿易	内地貿易	
大正元年	1,254,244	100	91	9	37.4
同二年	1,242,488	91	30,966	83,282	33.4

年	總額	指數	輸出	輸入	輸入超過
同三年	1,216,333	89	85,637	233	332
同四年	1,290,333	103	100,821	229	370
同五年	1,773,700	141	130,287	265	505
同六年	2,346,911	187	173,376	261	659
同七年	2,435,576	194	176,627	275	680
同八年	3,325,536	265	232,871	300	916
同九年	3,887,022	310	293,162	246	1,058
同十年	2,663,933	238	232,418	223	763
同十一年	2,769,960	231	209,475	244	756
同十二年	3,087,244	246	240,460	221	793

二 外國貿易

年	總額	指數	輸出	輸入	輸入超過
大正元年	342,677	100	14,960	19,307	4,347
同二年	309,966	90	13,942	18,024	5,081
同三年	259,996	76	12,682	13,024	33
同四年	282,222	82	15,430	12,782	2,649
同五年	470,883	137	31,652	15,430	16,222
同六年	613,355	179	40,226	21,099	19,126

同	同	同	同	同	同	同
七	八	九	十	十	十	十二
年	年	年	年	年	年	年
六六、九四九	九九、七五五	九五、五四〇	六三、九七五	六七、四八五	六八、二六四	
一九五	二九一	二七九	一八七	一九七	一九九	
三三、三九四	三五、六二二	三五、一七三	二三、五四二	三〇、五六三	二九、一五二	
三三、五五五	六四、一三三	六〇、三六七	四〇、四三三	三六、九三三	三九、一一一	
一六一	二八、五二〇	二五、一九四	一六、八九二	六、三五八	九、九五九	

内地貿易

大	正	元	二	三	四	五	六	七	八	九	同
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	同
九一、一五七	八三、二八二	八五、六三七	一〇〇、八二一	一三〇、二八七	一七三、三七六	一七六、六二七	二二三、七八一	二九三、一六二			
一〇〇	九一	九四	一一一	一四三	一九〇	一九四	二五五	三三二			
四七、八三一	四〇、四四七	四五、七三八	六〇、一九三	八〇、六九五	一〇五、五八八	一〇五、九六二	一四二、二〇八	一八一、〇九二			
四三、三五	四二、八三六	三九、八九九	四〇、六二八	四九、五九二	六七、七八八	七〇、六六五	九〇、五七二	一一二、〇七〇			
四、五〇六	二、三八九	五、八四〇	一九、五六五	三一、一〇四	三七、八〇〇	三五、二九七	五一、六三六	六九、〇二一			

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
二二、四一八	二〇、四七五	二四、〇六〇									
二四四	二三〇	二六三									
二二八、八九七	二七、三〇一	一六九、四四二									
九三、五二一	八二、一七三	七一、〇一八									
三五、三七六	四五、二二八	九八、四三四									

① は移入超過なり。

十一年 二二、四一八  
 十二年 二〇、四七五  
 十三年 二四、〇六〇  
 十四年  
 十五年  
 十六年  
 十七年  
 十八年  
 十九年  
 二十年  
 二十一年  
 二十二年  
 二十三年  
 二十四年  
 二十五年  
 二十六年  
 二十七年  
 二十八年  
 二十九年  
 三十年

### 三四 對手國別外國貿易

臺灣の外國貿易は大體に於て輸入超過を示す。而して對手國中支那は累年主要の地位に在り。即ち輸出貿易總額に對する其の割合は少きも二割八分五厘、多きは四割四分を占め、輸入貿易に於ては更にその割合大にして、少きも三割四分、多きは四割九分を占む。

今大正十二年の外國貿易に就て觀るに、貿易總額六千八百萬圓中、輸出額は二千九百萬圓にして、就中支那の一千萬圓最も多く、總額の三割六分に當り、北米合衆國の六百六十萬圓、香港の四百十萬圓、蘭領印度の三百十萬圓等順次之に亞く。輸入額三千九百萬圓中第一位を占むるは支那の一千七百五十萬圓にして、總額の四割五分に當り、北米合衆國の六百三十七萬圓、蘭領印度の四百萬圓、關東州の三百七十萬圓、英吉利の百九十五萬圓、英領印度及海峽植民地の百六十萬圓等順次之に亞く。

#### 一 輸 出

總額	大正十二年	同十一年	同十年	同九年	同八年	同六年	同元年
支那	二九,一五三	三〇,五六三	二二,五四二	三五,一七二	三五,六三三	四〇,三二六	一四,九六〇
北米合衆國	一〇,五五六	一〇,三〇〇	九,一七八	一一,八九三	一二,一〇八	一四,三九九	四,二六四
香港	六,五九七	七,六九一	三,三三一	六,八三二	七,〇二一	五,五二八	四,九一七
其他諸國	四,一七二	四,三三三	四,五六九	六,〇三三	五,三三五	八,一四三	三,九三三

#### 二 輸 入

總額	大正十二年	同十一年	同十年	同九年	同八年	同六年	同元年
蘭領印度	三,一八九	三,二九四	三,〇六五	二,八九一	一,八五五	二,二七七	三三
佛蘭西	一,〇四九	三,四二二	二,二二二	三,八五五	三,四三三	八九	六八二
英吉利	八四一	一,〇三三	二,〇五二	一,三五九	九,九〇〇	七五〇	一,〇八七
比律賓諸島	三九四	四三二	四四五	二,〇二二	一,七〇六	八〇	五二
關東州	七二二	六二二	二五八	三四	七二	一,四八七	一三
英領印度及海峽植民地	一八四	二二〇	三五六	六六二	五二六	六二四	三四五
其他諸國	一,四八九	二,三〇九	一,九三三	三,〇八一	五,〇三七	六,八三九	三,一八五

佛領印度	一三四	二〇一	五四五	三三九	一三三三	八五九	三三九
暹羅	三〇四	二四五	三七一	二四九	二六九	三三三	一〇二
其他諸國	三、〇八四	五、一〇九	二、〇二七	四、六七六	一三、六四二	六〇六	一、六九〇

三五 支那、香港及南洋貿易

臺灣の外國貿易中、臺灣と最も密接の關係を有する支那、香港及南洋との貿易を再檢するに、年に依り多少の相異あるも、大體に於て常に重要な地位を占む。即ち大正十二年に就て觀るに、輸出額は一千九百七十六萬圓にして、輸出貿易總額の六割七分八厘を占め、輸入貿易は二千四百四十萬圓にして、輸入貿易總額の六割二分四厘に當れり。

一 輸 出

總額	大正十二年	同十一年	同十年	同九年	同八年	同六年	同元年
支那	一九七六一	一九六九七	一八七五九	二四二七五	三三、四二〇	二七、〇二七	五、一四八
香港	一〇、五二六	一〇、三〇〇	九、二七八	二一、八九三	二二、一〇八	一四、三九九	四、二六四
南洋	四、一七二	四、三三三	四、五六九	六、〇三三	五、三三五	八、一四三	三、九三
總額	五、〇六三	五、〇七四	五、〇二二	六、二五九	四、九六七	四、四七五	四、九二

本表の南洋とは英領海峽植民地、英領ボルネオ、蘭領印度、比律賓、英領印度、佛領印度、暹羅及濠太刺利を謂ふ。以下同し。

二 輸 入

總額	大正十二年	同十一年	同十年	同九年	同八年	同六年	同元年
總額	二、四四三	二、三八八	二、九一七	四、三三〇	三、八八五	一、四八三	九、九四三

支那	一七,四九八	一八,三三九	一九,四六五	二八,七三四	二六,六七三	九,三九八	六,七六七
香港	八八	七二	一四四	七七	八五	六三	一一九
南洋	六,八二七	五,五三八	九,五六八	一三,五九九	一〇,〇九七	五,四三三	三,〇五六
總額	二四,四一三	二四,〇七〇	二九,〇七七	四二,一〇〇	三六,八五五	一四,八三〇	一〇,一六二

三 比 例 (大正十二年)

支那	六七八	四四八	一〇〇〇	二〇〇〇
香港	一四三	四四八	五三三	七二七
南洋	一七四	一〇三	二二一	〇四
總額	九〇五	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇

外國貿易總額に對する割合

支那香港南洋貿易總額に對する百分比例

三六 重要品別外國貿易

臺灣の外國貿易中輸出品の主要なるものは、茶、砂糖、石炭、樟腦、酒精等なり。今大正十二年に就て之を觀るに、茶は一千萬圓を以て第一位を占め、石炭の五百七十萬圓、樟腦の三百三十萬圓、砂糖の二百四十萬圓等順次之に亞く。次に輸入品の主要なるものは、豆油、糖、阿片、木材及板、石油、包糖、豆類等に於て、大正十二年には豆油糖の七百六十五萬圓第一位を占め、砂糖の四百四十五萬圓、豆類の二百五十七萬圓、木材及板の二百三十五萬圓、包糖の百八十八萬圓、阿片の百五十萬圓、石油の百三十六萬圓等順次之に亞く。

一 輸 出

茶	大正十二年	同十一年	同十年	同九年	同八年	同六年	同元年
砂糖	二〇,〇〇八	九,五三三	七,九四五	六,四〇〇	八,二〇九	四,五四七	六,六七四
石炭	二四,〇〇〇	二,八三二	二,三二五	六,九六七	七,五八八	一五,七七五	一,七二九
樟腦	五,六九五	五,七一九	六,五八二	八,九八二	八,〇三七	一,八二二	一,一八
樟腦	三,三〇五	四,四一八	二,八〇	四,三三五	三,〇七四	四,六二九	四,五〇〇
樟腦	一,三七	二,六八	五,四五	一,三六四	二,一五	一,七八九	一,一八
樟腦	四,五四	一,二六七	一,三〇三	二,二七一	一,三三〇	一,四六三	九,九
樟腦	五,六五	五,九六	九,一七	七,八五	六,一一	一,七二一	一,五七

苧	三六五	四〇六	四三五	六八八	六八二	五七〇	三七九
酒	一、三〇〇	六五二	五七一	三一	三五七	七五六	二四
龍眼	四六〇	一三五	二二五	一四五	二二〇	三三八	二三四
錫及乾烏賊	五三三	五四	六三	一八	七六	六三四	四五

二一輸入

豆油	七、六五七	七、八三	六、二五四	二、二九八	一〇、二三三	四、四三	一、九二七
砂糖	四、四四五	六、〇九九	五、三七七	一、〇九九	一、五、五七四	二、	一、四八
阿片	一、五二一	一、六六九	一、五〇五	六、〇六二	六、四三四	三、八五八	三、〇九四
米	二、六六	四、五〇	一、三三一	三、九三八	七、四〇九	四、三〇	一、一五四
木材及板	二、三五二	二、一四六	二、二四八	二、六〇二	一、七七五	六、七九	七、〇五
石油	一、三五九	一、三七四	一、九四七	一、九二一	二、三三六	八三〇	七、五六
包蓆	一、八八〇	一、六五九	五七五	一、三五三	二、四六八	一、七四二	四、九七
煙草	四二七	九〇一	八五七	一、七三四	一、六七九	三三二	九〇七
豆類	二、五七八	二、九〇八	一、四九三	一、七三四	九四〇	一一三	三、三九
紙	七、七三	八六三	一、二七六	一、一八七	七九七	五二〇	五、九四
綿織物	五、四〇	五、九四	五、九四	三、八八	八八五	六〇五	一、二〇六
小麥粉	三	九二	一、〇二一	二、三六	二、三三六	一	一、二九

大正十二年 同十一年 同十年 同九年 同八年 同六年 同元年

鐵	七二七	一二七	三六八	一七四	九二八	一、〇八七	三、三四
鐵(共)	一九九	三三九	三九五	七二六	四三四	一、一九〇	一、〇〇
麻織物	六三四	四三二	六七二	七九四	七二一	二九〇	一九四

鐵(共) 一九九 三三九 三九五 七二六 四三四 一、一九〇 一、〇〇

麻織物 六三四 四三二 六七二 七九四 七二一 二九〇 一九四

三七 重要品別内地貿易

臺灣の内地貿易中移出品の主要なるものは、砂糖、米、芭蕉實、樟腦及樟腦油、木材及板類、酒精、鯉節等なり。今大正十二年に就て之を觀るに、砂糖は一億一千八百八十萬圓を以て第一位を占め、米の二千三百六十萬圓、芭蕉實の八百二十八萬圓、樟腦及樟腦油の五百二十萬圓、木材及板類の三百三十萬圓、酒精の三百萬圓、鯉節の百八十四萬圓等順次之に亞く。

次に移入品の主要なるものは、綿織及絹織布、各種機械及同部分品、鹹魚及乾魚、肥料、鐵、酒類、紙、米等にして、大正十二年には綿織及絹織布六百四十七萬圓を以て第一位を占め、各種機械及同部分品の四百三十萬圓、鹹魚及乾魚の四百二十五萬圓、鐵及各種肥料の各四百六萬圓、酒類の三百四十萬圓、紙の二百十七萬圓、米の百九十七萬圓等順次之に亞く。

一 移出

砂糖	大正十二年 千円 二一、八〇八	同十一年 千円 八四、四六九	同十年 千円 八四、七〇九	同九年 千円 一三五、三三四	同八年 千円 七九、一三三	同六年 千円 六八、三四五	同元年 千円 二八、一三四
米	二、三、六三七	一、三、五八二	一九、二九四	一七、二一八	三四、四九三	一三、六一八	一〇、二五七
酒類	三、〇〇五	一、七七八	五、八〇一	九、九六三	一二、四四九	八、五六七	一、五七九
樟腦及樟腦油	五、二二四	四〇、八〇〇	三、四九四	四、八四九	三、七四〇	二、八六〇	二、五七〇
芭蕉實	八、二八〇	六、八七六	四、一五六	一、八〇六	二、〇三〇	一、六〇二	三、三七七

二 移入

銅	七五七	二、〇七八	一、六五八	九九七	九三七	一、五九二	二、〇九二
茶	二二六	一四〇	三五八	二九三	三〇二	三、七九四	一五四
木材及板類	三、三三七	一、七五三	五八六	一、四六八	五七一	八二四	六七
鐵節	一、八四二	一、八四五	一、二〇八	八五四	七七四	二八七	一九
石炭	一、八四一	一、七九〇	五七九	一、六一八	九五二	二五一	一一
鳳梨罐詰	九三五	八六〇	八六五	八四〇	五二九	二六九	一一
麻織物	五五〇	六五三	七一九	四九四	二七五	二七三	一一
生皮	一八九	一四八	二〇三	三六七	三九三	四九一	二〇九

綿織及絹織布	大正十二年 千円 六、四七三	同十一年 千円 六、四二二	同十年 千円 七、七三七	同九年 千円 六、〇三九	同八年 千円 八、一三三	同六年 千円 六、六〇八	同元年 千円 五、〇一六
各種機械及同部分品	四、三〇四	五、五五九	八、六七二	一一、七四四	八、五三八	三、四九六	一、七二四
各種肥料	四、〇六五	四、四一四	四、三五六	七、九六二	六、五〇五	六、〇九八	一、五二四
鹹魚及乾魚	四、二四五	四、一八二	四、九二一	六、四三三	六、八一四	五、二二六	三、〇五四
鐵	四、〇六五	四、二六二	六、〇三一	五、九〇九	四、二四〇	四、四七〇	一、八八〇
酒類	三、四三二	五、五四八	六、一五五	四、八六五	五、一八八	二、三八八	一、九八六
木材及板類	一、八四二	二、八九五	四、四〇〇	七、七三二	二、二五二	二、〇三三	三、四七一

金屬製品	一七四三	二五三〇	三三〇〇	五、六八二	二、八八九	一、九六六	七七四
建設材料	一、八四四	二、四三三	一、八四一	二、八七〇	一、三七二	三、〇一八	一、七八七
穀粉及澱粉	一、〇五五	一、二三八	一、五七八	一、八六三	二、六六九	二、一九八	四八二
燐寸	二、一七一	二、一五七	二、三六四	二、六二〇	二、三三三	一、二八一	八三八
紙	一、九七八	五、七二二	一、六八〇	一、四一七	一、三八一	一、八〇三	一、〇一八
米	一、二〇七	一、二〇〇	一、一〇一	一、九九六	一、九〇七	一、二六三	五〇七
鐵製	一、五二六	一、七二五	二、二一九	一、五四二	一、〇九六	六九四	六六三
煙草	八九一	四二九	一、四三三	一、四三三	五八五	一、三〇七	一、二四六

三八 港別貿易

大正十二年に於ける臺灣の輸移出入貿易總額三億八百萬圓を港別に觀れば、基隆の一億五千萬圓第一位を占め、總額の四割九分七厘に當り、高雄の一億四千萬圓之に亞て四割五分一厘を占め、安平の八百三十萬圓、淡水の三百萬圓を始め殘餘の諸港は之を合算するも尙僅かに總額の五分二厘を占むるに過ぎず。

今之を内地其の他の諸港に比較するに、基隆は横濱、神戸、大阪、大連、釜山に亞て第六位を、同じく高雄は第七位を占めて共に釜山と仁川との中間に在り。更に安平は小樽と鹿兒島との中間に、淡水は伏木と青森との中間に位ひす。

横神大釜基高仁小

濱戸阪連山隆雄川樽

總額	輸	入
一、二八三、八六九	六六八、六一一	五二五、二五八
一、三六五、〇三九	三五七、一三三	一、〇〇七、九二七
四七四、〇四五	二九六、七七〇	一七七、二七五
二、三七二、〇三	一、三二、四二九	九五、七七四
一、六七、二九二	九三、七二四	七三、五六八
一、五三、三二八	八六、七七八	六六、五四九
一、三九、三四五	一〇八、三三五	三二、一九
九三、二九一	三九、七二八	五三、五六二
一、二七、〇四	八、八五六	三、八四八



安	鹿	伏	淡	青	八、二九〇	五八一	七、七〇九
平	兒	木	水	森	六、八五八	七二	六、七八七
					三、八七五	一〇四	三、七七二
					三、一〇三	七二六	二、三八六
					二、九三四		二、九三四

臺灣及朝鮮の輸出中には移出を、輸入中には移入を含む。  
 朝鮮、關東州は同廳統計書に依る。  
 北海道、内地府縣は第四十三回帝國統計年鑑に依る。

### 三九 財政

臺灣總督府特別會計が全く國庫の補助を受けずして、獨立の實を擧ぐるに至りしは、明治三十八年度なりき。而して同年度の歳入は僅かに二千五百萬圓に過ぎざりしか、爾來年と共に其の額を増大し、大正八年度には一億圓を突破し、大正九年度には一億一千九百萬圓を以て新記録を作りたり。然るに大正十年度よりは更に減退を示し、大正十三年度には九千五百九十九萬圓を豫算せり。

次に歳入中其の主要部分を占むるは官業及官有財産收入にして、其の歳入總額に對する割合は年に依り多少の高低あるも少きは三割九分、多きは七割一分を占む。

歳出は明治三十八年度の二千萬圓より、大正八年度の七千二百萬圓に増加し、更に大正十一年度には九千六百萬圓に増額したりしも、大正十二年度には八千七百萬圓に減退し、大正十三年度には九千百萬圓を豫算せり。

年次	總額		租稅		其他		數指		歳入百分比例		歳出	
	千圓	百圓	千圓	百圓	千圓	百圓	租稅	其他	官業及官有財産收入	其他	千圓	百圓
明治三十八年度	二五、四一四	七、三八五	一三、九二九	四、一〇一	一〇〇	二九一	五四八	一六二	二〇、四四三	一〇〇		
大正元年度	六〇、二九六	一三、四九四	二四、七三〇	三、〇七三	二二七	三三四	四一〇	三六六	四七、二八九	二三二		
同 六年度	六五、四二五	九、九六九	三六、九九七	一八、四九九	三〇一	一五三	五六五	二八三	四六、一六七	二三六		
同 七年度	八〇、五〇一	一一、三四六	三九、六八八	二九、四六六	三七七	一四一	四九三	三六六	五五、三三五	二七一		

同	八年度	一〇〇、一六六	一五、二三〇	四五、六二九	三九、三〇七	三九四	一五二	四五六	三九二	七二、三三三	三五四
同	九年度	一一九、一四八	二四、三〇二	五一、八四六	四三、〇〇〇	四六九	二〇四	四三、五	三六一	九五、三三四	四六六
同	十年度	一一三、〇三六	二二、三三九	四三、九六五	四六、八三一	四四一	一九〇	三九二	四一八	九四、五二〇	四六二
同	十一年度	一一三、四二一	一九、〇二七	五九、六五七	三四、七四九	四四六	一六八	五三六	三〇六	九六、三四七	四七一
同	十二年度	一一一、〇九八	一七、六七三	六五、二二〇	二八、三〇五	四三七	一五九	五八六	二五五	八七、七三九	四二九
同	十三年度	九一、五九四	一五、〇五〇	六五、〇六六	一一、四七九	三六〇	一六四	七二二	二二五	九一、五三三	四四八

本表中大正十一年度迄は決算、大正十二年度は現計、大正十三年度は豫算なり。

四〇 專 賣

臺灣の專賣は現在、阿片、食鹽、樟腦、煙草及酒の五種なるが、就中酒は大正十一年七月以降の實施とす。今最近十二年間に於ける專賣の賣渡價額を觀るに、大正元年度には七百萬圓なりしものが、大正六年度には二千萬圓を越ゆるに至り、更に大正九年度には三千萬圓を突破したるも、翌大正十年度には經濟界の世界的不況に伴ひ、樟腦の如きは特に前年度の九百萬圓より三百萬圓に減退したる爲め、總額も二千三百萬圓に低下したりしか、大正十一年度には稍、景況を回復したると、酒專賣實施の結果總額三千二百萬圓に達し、大正十二年度には三千七百萬圓に増加せり。

大正元年度	一六、九二〇、二二一	六〇、二七、八三八	七四七、九三三
二年度	一六、三三〇、六二九	五、八八六、四〇〇	八〇八、九二二
三年度	一六、一四一、八五八	五、六八三、八六四	八九六、四六九
四年度	一六、二二三、五五七	五、八〇〇、七二四	八七三、九七八
五年度	一八、六四二、二〇八	六、五九〇、一五三	九五二、九三五
六年度	二〇、三五八、五六三	六、九二四、三七七	一、一八〇、四六五
七年度	二一、六四七、〇〇三	七、五五三、二四五	一、〇九三、二〇五
八年度	二五、七六四、六五四	七、六一九、四二二	一九七九、〇八五
九年度	三〇、四八四、三二七	七、七〇八、二三五	九九七、七七八
總額		阿片烟膏	食鹽

同	十一年度	三三、四〇九、〇八六	六、七三二、六一四	一、七五三、六七七
同	十一年度	三三、七五二、〇四七	六、二八三、二七七	一、八一〇、三〇七
同	十二年度	三七七二、四二八	五、六四〇、六六五	二、三八二、八三三

大正元年度	五、六二〇、六〇七	四、五三三、八三四	一〇〇	一〇〇
同 二年度	四、九一六、二〇八	四、七一九、一〇九	九七	九七
同 三年度	五、〇二二、〇九三	四、五四九、四三三	九五	九五
同 四年度	四、八九〇、五八六	四、六六八、二六九	九六	九六
同 五年度	五、七八二、八七一	五、三一六、二四九	一〇〇	一〇〇
同 六年度	六、四四二、三七八	五、八一三、三四三	一三〇	一三〇
同 七年度	六、〇三五、六五五	六、九七五、八九八	一三八	一三八
同 八年度	七、四五六、六〇三	九、七〇九、五五四	一五二	一五二
同 九年度	九、三五〇、七七二	一一、四二七、五三二	一八〇	一八〇
同 十年度	三、二二三、七九六	一一、六五八、九九九	一三八	一三八
同 十一年度	七、三七一、四八二	一〇、七四六、二八九	一九四	一九四
同 十二年度	一〇、七九九、二五八	一〇、七五五、一四四	二二三	二二三

四一 銀行

臺灣に於ける銀行は、大正十二年十二月末現在に依れば行數七(内、日本勸業銀行及三十四銀行は支店)にして、其支店數四十二、資本金一億一千五百萬圓、(拂込金九千四百九十萬圓)、準備金一千六百萬圓、純益金八百萬圓、預金八千三百萬圓、貸出金三億七百萬圓なり。

總	支店	公稱	準備金	純益金	預金	貸出金
臺灣銀行	四	一、二五八、二二	一六、〇九〇	八、〇七一	八三、七〇四	三〇七、四〇六
日本勸業銀行	一	六〇〇、〇〇〇	一三、九八〇	四、九七七	三六、二八〇	二〇〇、二七三
華南銀行	一	三三、三二二	—	一、一九五	一七二	三五、七三三
臺灣商工銀行	一	一〇、〇〇〇	二二三	五七九	二、三三七	一六〇、〇六
彰化銀行	一	一六、〇〇〇	一、二七〇	八三三	二、三六九	三三、〇七八
臺灣貯蓄銀行	一	六、〇〇〇	一、七二六	三三二	九、〇四一	一一、八三九
三十四銀行	二	一、〇〇〇	—	二	二、一四七	四〇四
臺灣支店	二	五〇〇	—	一五	九、八七八	九、九八三

預金及貸出金は島内に於ける事實のみを掲ぐ。  
日本勸業銀行支店及三十四銀行支店の資本金は本島各支店に於ける元金を掲ぐ、但し勸業銀行支店元金は毎月末本店勘定の平均額なり。



### 四三 教育

臺灣の教育は、大正十一年二月發布の臺灣教育令に依り、從來の方針を一變し、初等教育を除くの外は、悉く内臺人共學の制を採るに至れり。而して初等教育機關たる小學校及公學校の八百二十一校、兒童二十三萬六千人、高等普通教育機關たる高等學校、中學校及高等女學校の十七校、生徒五千二百人、師範學校は三校、生徒千八百人、實業教育機關たる實業補習學校、農林學校、工業學校、商業學校の十一校、生徒千八百人、專門教育機關たる醫學專門學校、高等農林學校、高等商業學校、商業專門學校の四校、生徒八百人、私立各種學校十六校、生徒二千三百人、書房百二十二、生徒五千三百人あり。

次に初等教育機關を内地其他と比較するに、人口千に對する小學校兒童數は内地府縣の百五十四人一分最も多く、關東州の百一人最も少く、我臺灣は百二十六人四分を以て僅かに關東州の上に位す。又臺灣の公學校、朝鮮の官公私立普通學校、樺太の土人教育所及關東州の官立公學堂及公立普通學堂兒童の人口千に對する割合は、樺太の九十七人三分最も多く、我臺灣は五十七人九分を以て之に亞き、朝鮮は僅かに十七人六分を以て最下位に在り。

#### 一 教育機關 (大正十三年三月末日現在)

學校數

一

教員數

六一

生徒又は兒童數

三八七

教員一人に付生徒數

六三

醫學專門學校

高等農林學校	1	1	25	133	53
高等商業學校	1	1	25	175	69
商業專門學校	1	1	15	133	88
高等學校	1	1	8	133	68
師範學校	3	3	94	182	199
中學	8	8	28	240	191
高等女學校	1	1	13	261	186
農林學校	1	1	16	231	144
工業學校	1	1	5	231	87
商業學校	2	2	3	442	186
小學	133	756	33	615	304
公學	688	5057	231195	231195	304
實業補習學校	7	6	16	231195	304
私立各種學校	26	238	238	563	352
書房	233	174	174	5283	304

學校數(小學校及公學校は分教場を含む)、教員は大正十三年三月末日現在にして其の生徒又は兒童數は同三月一日現在なり。

二 内地其の他との初等教育比較

小學校	校數	教員數	兒童數	一校平均兒童數	教員一人に付兒童數	人口千に付兒童數
臺灣	133	756	33,990	173.9	30.4	126.4
朝鮮	440	1,694	52,701	119.8	31.1	130.8
關東州	154	471	19,055	123.7	40.5	140.2
北海道	49	624	20,521	418.8	33.4	101.0
内地府縣	1,561	7,841	389,087	249.3	49.6	149.9
公學校	24,001	181,635	848,299	353.4	44.3	154.1
臺灣	688	5,057	231,195	309.9	43.2	157.9
朝鮮	1,099	6,149	306,358	278.8	49.8	176
關東州	238	7	174	29.0	24.9	97.3

公學校の朝鮮は官公私立普通學校、樺太は土人教育所、關東州は官立公學堂及公立普通學堂の事實なり。  
人口千に付兒童算出の基數は、小學校に在りては内地人のみを、公學校に在りては各其の本土人のみを以て算出す。

臺灣の兒童は大正十三年三月一日現在なり。  
 朝鮮は大正十二年度末(兒童は大正十三年三月一日)現在にして大正十二年朝鮮總督府統計年報に依る。  
 樺太は大正十二年度末現在にして第十六回樺太廳治一斑に依る。  
 關東州(州内、州外、領事館)は大正十二年度末現在にして、關東廳第十八統計書に依る。  
 北海道、内地府縣は大正十年度末(兒童は大正十一年三月一日)現在にして第四十三回帝國統計年鑑に依る。

### 四四 衛生機關

臺灣には大正十二年末現在、官立十二、公立十九、私立七十四、計百五の醫院と、八百八十二名の醫師と、五百八十三名の醫生と、四百八名の産婆を有す。醫師醫生一人に對する人口は全島平均二千六百五十七人にして、その割合の最も少きは新竹州の二千四百八十八人、最も多きは高雄州の三千四百六十一人なり。

總數	醫院			醫師及醫生			産婆	
	官立	公立	私立	總數	醫師	醫生	産婆	醫師醫生一人に付人口
臺北州	三	九	七	一四六	八八	五八	四〇	二六五
新竹州	一	一	七	三六	二五	一〇	二四	二二〇
臺中州	一	二	一	三三	八〇	一五	三四	二一八
臺南州	二	六	二	三三	一八〇	一三	八〇	二七五
高雄州	三	二	一	三三	一三	一〇	一三	三〇七
臺東廳	一	一	一	一六	一三	五	五	三〇六
花蓮港廳	一	一	一	二	二	一	二	二七六
總數	三三	一九	七四	一四六	八八	五八	四〇	二六五

醫生とは明治三十四年府令第四十七號臺灣醫生免許規則に依り免許を得て其の管轄内に於て醫師を業と爲す者とす。  
 本表の外藥劑師七十六名、齒科醫師八十七名を有す。

四五 水道

臺灣に於ける既設水道の總數は二十四箇所にして、其の所管は臺灣總督府所管一（恒春種畜支所）、陸軍省所管三（臺東、玉里、パロン）、州所管二（高雄、屏東）、廳所管一（花蓮港）にして其の他は總て所在市街庄の經營に係る。

大正十二年度末現在給水戸數は、計量器の設備なき分の中六箇所を除き、専用栓給水戸數三萬一千六百七十七戸、共用栓給水戸數二萬三千六十四戸にして、同年度中の消費水量は同しく二千六百五十六萬餘立方米なり。

名 稱	給水開始年月	年度末現在		年度中消費水量（立方米）		
		專用栓戸數	共用栓戸數	總 數	計量供給	放任供給
淡水	明治三二年三月	四一五	一一五	七四四、〇二〇	四二〇、二〇〇	七〇二、〇〇〇
基隆	同 三五年三月	三、一五四	二、三七八	一、三四八、四三五	—	一、三四八、四三五
彰化	同 四一年四月	四六八	三〇二	三〇五、〇〇〇	二〇、二六〇	一八四、七四〇
臺北	同 四二年四月	一八、九五	一三、八三二	一一、一五二、三四六	一、五九九、四四九	九、五五二、八九七
士林	同 四四年六月	七七	六	一一〇、六九三	二〇、〇〇四	九〇、六八九
大甲	同 四四年九月	一九五	二六	八二、六〇〇	—	八二、六〇〇
斗六	同 四五年六月	三三五	二〇	四七一、五〇〇	一〇〇、五〇〇	三七二、〇〇〇
高雄	大正元年八月	一三三	二四	六六、三六五	六六、三六五	—
同	同 二年四月	一、七〇四	一、〇六六	二、六七〇、四一〇	七〇二、八六五	一、九六四、五四五



嘉義	大正三年二月	九六五	二、〇八六	一、八四三、五四九	五七二、五五五	一、二七〇、九九四
三星	同 三年三月	三一	二四〇	六〇、三九八	—	六〇、三九八
臺中	同 五年五月	二、一九九	三二七	二、四一一、八〇〇	二、三六〇、六六六	二、一八五、七三四
屏東	同 五年一月	五、六〇〇	四六六	七九一、七二五	一七九、三八四	六二二、三三一
豐原	同 一〇年九月	二、三〇〇	九八	二、七四、八五一	—	二、七四、八五一
花蓮	同 一〇年一月	四四〇	三八九	五八二、五六九	—	四、五三、三九二
臺南	同 一〇年四月	一、四六七	一、〇四七	二、五七六、五二八	—	二、一〇六、八六六
新化	同 一〇年四月	三二	六四	八九、五四六	—	七五〇、九八
埔里	同 一二年六月	四、五八	四九八	三〇四、九〇九	—	二九〇、〇八二

本表の外金山、坪林、臺東、バロン、恒春(種畜支所)、玉里の六水道あるも、計量器の設備なく爲に消費水量不明に付之を除く。

### 四六 ペストとマラリア

臺灣は一般に不健康地の如く解せらるゝも、衛生設備の完成と共に、近年其の面目を一新し、ペストの如き大正七年以來全く之れが發生を見ず。又マラリアの如きも其の死亡数は年に依りて増減ありと雖、一般に減退の傾向を示し、明治三十九年に於て人口千に付死亡數三人二分一厘なりしものが、大正十二年には一人八分四厘に減退し、其の實數に於ても同年間に三割二分を減したり。

明治三十九年	二、五三四	一〇、五六二	一〇〇	一〇〇	〇、七七	三、二一
同 四十年	二、四四八	一一、七一五	九七	一一一	〇、七九	三、七七
同 四十一年	一、〇六四	一一、七四〇	四二	一一一	〇、三四	三、七五
同 四十二年	八五四	一〇、三三三	三四	九八	〇、二七	三、二六
同 四十三年	二五	九、一〇四	一	八六	〇、〇一	二、九二
同 四十四年	三六一	七、九四九	一四	七五	〇、一一	二、四二
大正元年	一八七	六、九〇九	七	六五	〇、〇六	二、〇六
同 二年	一、二二三	六、五七二	五	六二	〇、〇四	一、九二
同 三年	四九四	八、八八五	一九	八四	〇、一四	二、五六
同 四年	六四	一三、三五〇	三	一、二六	〇、〇二	三、八三

死亡實數

指數

人口千に付死亡

ペスト マラリア      ペスト マラリア      ペスト マラリア

同 同 同 同 同 同 同  
 五 六 七 八 九 十 十  
 年 年 年 年 年 年 年  
 二 一 二

二	三	三	三	三	三	三	三	三	三
一、三四六	九、七二九	八、二九二	八、二〇六	七、七六〇	七、〇七〇	八、九一六	七、一六四		
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一〇七	九三	七九	七三	七三	六八	六八	六八		
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三三三	二七三	二三三	二二二	一八八	二二二	二二二	一八四		

### 四七 阿片吸食特許者

臺灣總督府は阿片問題に就ては嚴禁主義を避けて漸禁の方針を執り、阿片癮者と認むる者に限り其の吸食を許可し、漸次之が絶滅を期し、逐年豫期の目的の到達に近づきつゝあり。即ち之を最近十二年間に就て觀るに、阿片吸食特許者(本島人)の數は八萬七千三百七十一人より三萬九千四百六十三人に減少したり。

總數 男 女 指數

大 正 元 年  
 同 二 年  
 同 三 年  
 同 四 年  
 同 五 年  
 同 六 年  
 同 七 年  
 同 八 年  
 同 九 年  
 同 十 年  
 同 十 一 年

八七、三七一	七五、九九九	一一、三七二	一〇〇	五二	八八	一四
八二、二八	七一、三八一	一〇、七四七	九四	四九	八三	一三
七六、九九五	六六、八四〇	一〇、一五五	八八	四六	七七	一三
七一、七二五	六二、一五六	九、五五九	八二	四五	七六	一三
六六、八四七	五七、八二九	九、〇一八	七七	四二	七〇	一三
六三、三七七	五三、八三八	八、四七九	七一	三九	六五	一三
五五、七七二	四八、一五八	七、六一四	六四	三五	五九	一〇
五二、〇六三	四四、八九〇	七、一七三	六〇	三三	五五	〇九
四八、〇二二	四一、三七五	六、六三七	五五	二八	四七	〇八
四四、九三三	三八、六八〇	六、二四二	五一	二六	四四	〇七
四二、一〇八	三六、二五七	五、八五一	四八	二四	四一	〇七

總數

男

女

特許年齢以上の  
 本島人百に付

同 十二年 三九四三 三九六五 五四九八 四五 二三 三九 〇六  
 本表は各年十二月末日現在にして本島人のみなり。

### 四八 鐵道

臺灣の鐵道は、大正十二年度末には官設鐵道(阿里山鐵道を含む)の營業哩數五百二十  
 二哩に達し、外に私設鐵道千二百八十哩を有す。私設鐵道は主として製糖會社の經營す  
 る所にして、內營業線は三百哩なり。  
 今之を内地其他と比較するに百方に里に付鐵道營業線の哩數は關東州の二百九十三哩  
 二分最も多く、我臺灣の六十六哩一分之に亞き、樺太の五哩九分最も少く、更に人口萬  
 に付哩數は樺太の九哩九分最も多く、朝鮮は一哩未滿にして最も少く、臺灣は二哩一分  
 を以て内地の上に在り。

營業線路延長(哩)

	總數	官設	私設	百方に里に付哩	人口萬に付哩
臺灣	八三	五三	三〇	六・二	二・一
朝鮮	一、五三	一、二八	三三	一〇・六	〇・九
樺太	一三九	一三	—	五・九	九・九
關東州	六八九	—	六八九	二九・三	七・〇
北海道	一、三三	一、二七	五九	二〇・〇	四・五
内地府縣	七二八	五四三	一八六	三三・二	一・三

朝鮮、樺太、關東州は大正十二年度末にして同廳統計書に依る。  
 北海道、内地府縣は大正十年度末(平均營業哩)の事實にして第四十三回帝國統計

年鑑に依る。

四九 郵便、電信、電話

臺灣に於ける郵便、電信、電話の現況を觀るに、大正十二年度に於て通常郵便は引受五千六百萬、配達六千萬、電信は發信百二十五萬、著信百二十九萬、爲替は振出二千三百八十萬圓、拂渡千六百十萬圓、貯金は預入一千三十萬圓、拂戻九百九十萬圓なり。又同年度末現在電話加入者數は一萬一千十八、年度中加入者發信通話度數は四千三百六十萬、公設電話發信通話時數二十一萬あり。

今之を内地其の他と比較するに、人口十に對する割合は通常郵便引受、電報發信、爲替振出及貯金預入を通して最多數を示すは樺太にして、其の最小數は通常郵便引受、電報發信及爲替振出の三は朝鮮、貯金預入は臺灣なり。又人口十に付電話加入者數の最も多きは樺太、最も少きは朝鮮にして、同加入者一に付通話度數の最も多きは北海道、最も少きは朝鮮なり。

一 郵便 電信、爲替、貯金及電話

通常郵便	引受	五、〇七五、五二五
配達	五、六三九、〇九八	
人口十に對する	一四四・一	
發信	一、二五三、三三四	
著信	一、二九一、三六五	

電 話		貯 金		爲 替	
人口十に對する	人口十に對する	人口十に對する	人口十に對する	人口十に對する	人口十に對する
發信	振出	預入	拂入	振出	振出
三二	一六、二八、六三五圓	六二	一〇、二八九、一四三圓	六二	三、七九三、五八四圓
			九、九二八、四九八圓		
			二六、四		
			一一、〇一八		
			四、六〇七、四六五		
			二八		
			三、九五八		
			二〇、三三九		
			五四〇		

二 内地其他との比較 (大正十二年度)

内地其他	人口十に對する			電 話	
	通常郵便 傾引受	電報 發信	爲替 振出	貯金 預入	加入者一に 付通話度數
臺灣	一四四・二	三三	六二・二	二九	三、九五八
朝鮮	九一九	二八	六〇・二	三〇七	三、九二六
關東州	一、七五五	六四・二	一一、一九七	三〇八八	四、七二五
關東州	四〇六七	三三	一八九七	七六八	六、〇九一
北海道	六二六八	二二	二四九二	二九九	五、〇六七
内地府縣	六三三三	二二	二二七	一四六	三、九八四

朝鮮、樺太、關東州は大正十二年度の事實にして同廳統計書に依る。  
 北海道、内地府縣の郵便、電信、電話は大正十二年度通信要覽に依り、爲替は大正十一年度の事實にして第四十三回帝國統計年鑑に依る。

五〇 警察官署及職員

臺灣の地方警察機關數は大正十二年末現在に依れば、州警務部五、廳警務課二、警察署四、警察分署一、郡警察課四十七、支廳七、派出所及駐在所千三百九十一にして、同職員の數は警視二十一人、警部及警部補五百五十九人、巡查七千三百三十二人なり。今之を内地其の他と比較するに、一方里に對する巡查の數は、關東州の四人七分最も多く、臺灣は三人一分を以て之に亞き、巡查一人に付人口は北海道の千百二十七人第一位を占め、内地府縣の千四十九人之に亞き、我臺灣は五百五十八人を以て僅かに樺太の上在り。

臺 灣	朝 鮮	樺 太	關東州(州内)	北 海 道	内 地 府 縣	警察官署		派出所及駐在所	職 員		一方里に付巡查一人に付
						署	分署		警視	警部及警部補	
五	二五	六	五	三	七	一	一	一三九	二	五九	三
								二五九	四	一三九	三
								六	一	七	三
								四〇	五	一〇三五	三
								一四〇	一	二四〇	三
								九五五	四	二四〇	三
								一七九	五	二八	二
								七九	六	三三	二
								二五	七	二八	二
								四六	一	二二	一
								一七	二	二二	一
								七	三	二二	一
								二五九	四	一九二八	一
								一三九	五	七三三	一
								二五九	六	七三三	一
								一三九	七	二二	一
								二五九	八	二二	一
								一三九	九	二二	一
								二五九	一〇	二二	一
								一三九	一一	二二	一
								二五九	一二	二二	一
								一三九	一三	二二	一
								二五九	一四	二二	一
								一三九	一五	二二	一
								二五九	一六	二二	一
								一三九	一七	二二	一
								二五九	一八	二二	一
								一三九	一九	二二	一
								二五九	二〇	二二	一
								一三九	二一	二二	一
								二五九	二二	二二	一
								一三九	二三	二二	一
								二五九	二四	二二	一
								一三九	二五	二二	一
								二五九	二六	二二	一
								一三九	二七	二二	一
								二五九	二八	二二	一
								一三九	二九	二二	一
								二五九	三〇	二二	一
								一三九	三一	二二	一
								二五九	三二	二二	一
								一三九	三三	二二	一
								二五九	三四	二二	一
								一三九	三五	二二	一
								二五九	三六	二二	一
								一三九	三七	二二	一
								二五九	三八	二二	一
								一三九	三九	二二	一
								二五九	四〇	二二	一
								一三九	四一	二二	一
								二五九	四二	二二	一
								一三九	四三	二二	一
								二五九	四四	二二	一
								一三九	四五	二二	一
								二五九	四六	二二	一
								一三九	四七	二二	一
								二五九	四八	二二	一
								一三九	四九	二二	一
								二五九	五〇	二二	一
								一三九	五一	二二	一
								二五九	五二	二二	一
								一三九	五三	二二	一
								二五九	五四	二二	一
								一三九	五五	二二	一
								二五九	五六	二二	一
								一三九	五七	二二	一
								二五九	五八	二二	一
								一三九	五九	二二	一
								二五九	六〇	二二	一
								一三九	六一	二二	一
								二五九	六二	二二	一
								一三九	六三	二二	一
								二五九	六四	二二	一
								一三九	六五	二二	一
								二五九	六六	二二	一
								一三九	六七	二二	一
								二五九	六八	二二	一
								一三九	六九	二二	一
								二五九	七〇	二二	一
								一三九	七一	二二	一
								二五九	七二	二二	一
								一三九	七三	二二	一
								二五九	七四	二二	一
								一三九	七五	二二	一
								二五九	七六	二二	一
								一三九	七七	二二	一
								二五九	七八	二二	一
								一三九	七九	二二	一
								二五九	八〇	二二	一
								一三九	八一	二二	一
								二五九	八二	二二	一
								一三九	八三	二二	一
								二五九	八四	二二	一
								一三九	八五	二二	一
								二五九	八六	二二	一
								一三九	八七	二二	一
								二五九	八八	二二	一
								一三九	八九	二二	一
								二五九	九〇	二二	一
								一三九	九一	二二	一
								二五九	九二	二二	一
								一三九	九三	二二	一
								二五九	九四	二二	一
								一三九	九五	二二	一
								二五九	九六	二二	一
								一三九	九七	二二	一
								二五九	九八	二二	一
								一三九	九九	二二	一
								二五九	一〇〇	二二	一

本表巡查一人に付人口中臺灣の分は蕃地居住の蕃人を算入して算出す。臺灣の警察署には郡役所警察課及支廳を含む。

關東州警務署は警察署に、同支署は警察分署として掲上す。  
朝鮮、韓太、關東州は同廳統計書に依る。  
北海道、内地府縣は大正十三年四月一日現在にして第四十三回帝國統計年鑑に依る。

五一 最近十二年間の進歩

人		耕		農		畜		林	
總	總	內	外	田	畑	產	產	產	產
地	島	地	國	地	地	數	數	數	數
口	數	人	人	人	人	人	人	人	人
大正元年	同十二年								
三、四三五、一七〇	三、九七六、〇九八	一、二二七、九三	一、八一、八四七	三、三二二、三二一	三、六七九、三七一	八二、三七	八四、一七七	一七、九二元	三〇、七〇三
七二、二八二甲	七五、四〇〇甲	三、四六、三七四甲	三、七六、七六七甲	三、六四、九〇八甲	三、九八、六三三甲	七四、九九一、七六二圓	一六二、五九二、六三九圓	二五、六六八、七二四圓	二九、〇三三、六六八圓
?	?	?	?	?	?	?	?	?	?
二六	二四八	二四	一〇四	一七	一〇九	二二七	二二七	一一三	一一三

大正元年を白としての数





私設鐵道線路延長  
郵便、電信及電話

八〇八哩

一二八〇哩

一五八

通常郵便引受通數

三〇,五七五,二一四

五六,〇七五,五一一

一八三

電報發信通數

九〇三,三六二

一二五三,二三四

一三九

爲替振出金額

一四,三九七,〇四五圓

二三,七九二,五八四圓

一六五

貯金預入金額

三,一九六,二四三圓

二〇,二八九,一四三圓

三三三

電話

三,七五八

一一,〇二八

二八三

加年度未現在  
電話通話度數

一七,六三四,六一〇

四三,六〇七,四六五

二四七

大正十四年六月廿八日印刷  
大正十四年六月三十日發行

臺灣總督府

臺北市新起町一丁目十番地

印刷者 加藤 豐吉

臺北市京町一丁目四十二番地

印刷所 小塚本店印刷工場

516

357

終